

第8節 技術・家庭

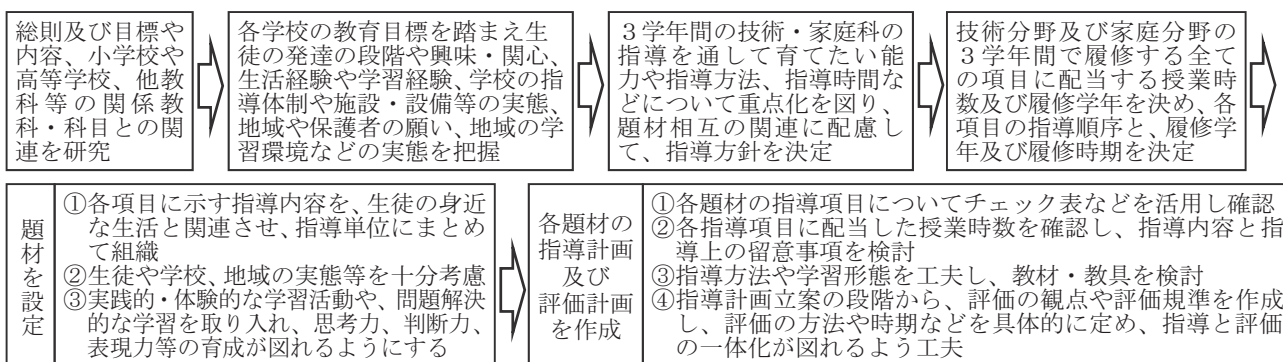
第1 指導計画の作成

1 指導計画作成の基本的な考え方

指導計画の作成に当たっては、法令及び学習指導要領「総則」のほか技術・家庭科の目標を踏まえ、分野間での連携を図り、次のような点に配慮する。

- (1) 改訂の趣旨を踏まえ、これまで以上に生徒や学校、地域の実態等を考慮し、創意工夫を生かしながら、全体として調和のとれた具体的な指導計画を作成する。
- (2) 題材など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにする。
- (3) 技術分野及び家庭分野の授業時数は、3学年間を見通した全体的な指導計画に基づき、いずれかの分野に偏ることなく配当し、各学年において、技術分野及び家庭分野のいずれも履修させる。
- (4) 技術分野の内容AからD及び家庭分野の内容AからCの各項目に配当する授業時数及び履修学年については、生徒や学校、地域の実態等に応じて、各学校において適切に定める。
- (5) 各項目及び各項目に示す事項については、相互に有機的な関連を図り、総合的に展開されるよう適切な題材を設定して計画を作成する。その際、小学校における学習を踏まえ、他教科等との関連を明確にして、系統的・発展的に指導ができるよう配慮する。

2 指導計画作成の一般的な手順



3 指導計画作成に当たっての留意すべき事項

- (1) 「特別な配慮を必要とするなど課題を抱えた生徒への指導」の視点（解 P123・124）
 目標や内容の趣旨、学習活動のねらいを踏まえ、学習内容の変更や学習活動の代替を安易に行わないよう留意し、生徒の学習負担や心理面に配慮する。個々の困難さに応じた指導内容や指導方法を工夫し、個別の指導計画を作成し、必要な配慮をする。
- (2) 「主体的・対話的で深い学び」の視点（解 P119～121）
 生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせ、知識を相互に関連付けてより深く理解するとともに、生活や社会の中から問題を見いだして解決策を構想し、実践を評価・改善して、新たな課題の解決に向かう過程を重視した学習の充実を図る。

主体的な学び	現在及び将来を見据えて、生活や社会の中から問題を見だし課題を設定し、見通しをもって解決に取り組むとともに、学習の過程を振り返って実践を評価・改善して、新たな課題に主体的に取り組む態度を育む学び。
対話的な学び	他者と対話したり協働したりする中で、自らの考えを明確にしたり、広げ深めたりする学び。直接、他者との協働を伴わなくとも、既製品の分解等の活動を通してその技術の開発者が設計に込めた意図を読み取ることも、対話的な学びとなる。
深い学び	生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、その解決に向けた解決策の検討、計画、実践、評価・改善といった一連の学習活動の中で、生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせながら課題の解決に向けて自分の考えを構想したり、表現したりして、資質・能力を獲得する学び。
生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方	家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、よりよい生活を営むために工夫すること。生活や社会における事象を、技術との関わりの視点で捉え、社会からの要求、安全性、環境負荷や経済性などに着目して技術を最適化すること。（解 P9・10）

(3) 「教科等横断的」な視点（解 P 4・5）

小学校における家庭科及び図画工作科等の関連する教科の指導内容や中学校の理科や社会科、保健体育科等との関連を図るとともに、高等学校における学習を見据え、教科のねらいを十分達成できるようにする。また、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力を育成していく。

(4) 「社会に開かれた教育課程」の視点（解 P129～131）

生徒の身近な生活との関わりや社会とのつながりを重視し、自己の生活の向上とともに家庭や地域社会における実践に結び付けることができるよう、家庭や地域社会、企業等と効果的に連携や協働が図れる題材を必要に応じて設定したり、関係施設等を積極的に活用したりする。

(5) 「道徳教育の充実」の視点（解 P124・125）

学習指導要領第1章総則の第1の2(2)の規定について、技術・家庭科の特質に応じて適切に指導する。道徳全体計画との関連、指導の内容及び時期等に配慮し、効果を高め合うようにする。

(6) 3学年間を見通した全体的な指導計画（解 P121）

技術分野の内容AからD及び家庭分野の内容AからCは、全ての生徒に履修させる。家庭分野の内容Aの(4)、Bの(7)及びCの(3)については、三項目から一以上の項目を選択して履修させる。

(7) 各分野の各項目に配当する授業時数及び各項目の履修学年（解 P121・122）

ア 家庭分野の内容A(1)については、ガイダンス的な内容として第1学年の最初に履修させる。

イ 技術分野の内容AからD及び家庭分野の内容AからCの各項目に配当する授業時数については、指導内容や生徒及び学校、地域の実態等に応じて各学校で適切に定める。

ウ 履修学年は、生徒の発達段階や興味・関心、地域や学校の実態、分野間及び他教科等との関連を考慮し、3学年間の全体的な指導計画に基づき各学校で適切に定める。

エ 家庭分野で、各内容の「生活の課題と実践」の履修の時期は、生活の課題を具体的に解決できる取組となるように学習の時期を考慮し効果的に実施できるよう配慮する。

(8) 題材の設定（解 P122・P123）

生徒及び学校、地域の実態等を十分考慮し、実践的・体験的な活動を中心として設定する。

ア 他教科等の連携を図り、ねらいを十分達成できるよう基礎的・基本的な内容を押さえたもの。

イ 生徒の主体的な学習活動や個性を生かすことができるもの。

ウ 自己の生活の向上とともに家庭や地域社会における実践に結び付けることができるもの。

エ 持続可能な開発のための視点から、関係する教科等の特質を踏まえて連携できるもの。

※ 家庭分野においては、各家庭や地域、生徒の実態に合わせ、プライバシーにも十分配慮する。

4 内容の取扱いについての配慮事項（解 P125～131）

(1) 言語活動の充実

各項目の指導内容や他教科等との関連も踏まえ、言語の能力を高める学習活動を指導計画に位置付け、言葉だけでなく、設計図や献立表といった図表及び衣食住やものづくりに関する概念などを用いて考えたり、説明したりするなどの学習活動を充実させる。

(2) コンピュータや情報通信ネットワークの活用

生活や社会の中から問題を見だし、課題を解決する活動の中で、課題の設定や解決策の具体化のために、情報通信ネットワークを活用して情報を収集・整理したり、実践の結果をコンピュータを用いて分かりやすく編集し、発表したりするなど工夫をする。

(3) 実践的・体験的な活動の充実とキャリア教育との関連

実践的・体験的な活動を中心に、習得した知識及び技能を生活の場で生かせるよう、生徒の実態を踏まえた具体的な学習活動を設定する。生徒一人一人に社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力や態度を育み、キャリア発達を促す。

(4) 個に応じた指導

学習課題の解決に必要な技能の習得状況を把握し、必要に応じて少人数指導や教材・教具を工夫することで、生徒が自ら設定した課題の解決策を実現できるよう配慮する。

(5) 生活や社会の中から問題を見だして課題を設定し解決する学習活動と、家庭や地域社会、企業などとの連携

生徒自らが問題を見だして適切な課題を設定し、学習した知識及び技能を活用し、主体的・意欲的に課題解決に取り組み、解決のための方策を探るなどの学習を繰り返し行う。また、家庭や地域社会、企業などと連携を図るよう配慮する。

第2 指導計画作成のための資料

1 技術分野の内容の構成について

(1) 各内容の構成

- 生活や社会で利用されている主な技術については、「A 材料と加工の技術」「B 生物育成の技術」「C エネルギー変換の技術」「D 情報の技術」の四つの内容に整理し学習する。
- 各内容を「生活や社会を支える技術」「技術による問題の解決」「社会の発展と技術」の3つの要素で構成し、項目として示している。
- 各項目では、アに「知識及び技能」に関する指導事項、イに「思考力、判断力、表現力等」に関する指導事項を示している。

生活や社会を支える技術	技術による問題の解決	社会の発展と技術
生活や社会を支えている技術について調べる活動を通して、技術に関する科学的な原理・法則と、技術の基礎的な仕組みを理解させるとともに、これらを踏まえて、技術が生活や社会における問題を解決するために、社会からの要求、安全性、環境負荷や経済性などの視点の長所・短所の折り合いを付けて生み出されてきているといった技術の見方・考え方に気付かせる要素。	「生活や社会を支える技術」で気付いた技術の見方・考え方を働かせ、生活や社会における技術に関わる問題を解決することで、理解の深化や技能の習熟を図るとともに、技術によって課題を解決する力や自分なりの新しい考え方や捉え方によって解決策を構想しようとする態度などを育成する要素。	それまでの学びを基に、技術についての概念の理解を深めるとともに、よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて、技術を評価し、適切に選択、管理・運用したり、新たな発想に基づいて改良、応用したりする力と、社会の発展に向けて技術を工夫し創造しようとする態度を育成する要素。
各内容の(1)の項目	各内容の(2)及びDの(3)の項目	A・B・Cの(3)及びDの(4)の項目

(2) 学習過程と、各内容の3つの要素及び「主体的・対話的で深い学び」との関わり

- 技術分野で育成することを目指す資質・能力は、単に何かをつくるという活動ではなく「既存の技術の理解」をした上で「課題の設定」を行い、解決策が最適なものとなるよう「技術に関する科学的な理解に基づいた設計・計画」を行っていく。そして「課題解決に向けた製作・制作・育成」を行い、その「成果の評価」を実施し、さらにこれらの経験を基に、「次の問題の解決の視点」として今後の社会における技術の在り方について考えるといった学習過程を経ることで効果的に育成できる。

なお、このような学習過程は、一方向に進むものではなく、生徒の学習の状況に応じて各段階間を往来する。

- 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、題材など内容や時間のまとまりの中で授業改善を進めることが求められる。特に「深い学び」の視点に関して、各教科等の学びの深まりの鍵となるのが「見方・考え方」である。「見方・考え方」を習得・活用・探究という学びの過程の中で働かせることを通じて、より質の高い「深い学び」につなげることが重要である。

学習過程	既存の技術の理解	課題の設定	技術に関する科学的な理解に基づいた設計・計画	課題解決に向けた製作・制作・育成	成果の評価	次の問題の解決の視点
	技術に関する原理や法則、基礎的な技術の仕組みをもとに、技術の見方・考え方に気付く。	生活や社会の中から技術にかかわる問題をいだし、それに関する調査等に基づき、現状を更によくしたり、新しいものを生み出し、解決するために課題を設定する。	一過程の評価と修正 課題の解決策を条件を踏まえて構想(設計・計画)し、試行・試作等を通じて解決策を具体化する。	一過程の評価と修正 解決活動(製作・制作・育成)を行う。	一過程の評価と修正 解決結果及び解決過程を評価し、改善・修正する。	
要素	生活や社会を支える技術	技術による問題の解決				社会の発展と技術
項目	各内容の(1)	各内容の(2)及びDの(3)				A・B・Cの(3)及びDの(4)
「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた活動例	既製品の仕組みを通じて、その技術に開発者が込めた意図を読み取る学習活動 (対話的な学び)	自ら解決したい、解決しなければならないと思える課題の設定 (主体的な学び)	自分が設計したものに對して対話を通してさらに広い視点で捉えられるようにする学習活動 (対話的な学び)		自ら解決を振り返ることで、身に付いた力を自ら賞したり、さらなる課題や修正案を発見したりする学習活動 (主体的な学び)	社会の技術の仕組みを読み取り、その技術の問題を発見しようとし、自ら選択、管理・運用、改良、応用について考える (主体的な学び) 自ら考えた問題の解決方法について対話を通して広い視点で捉えられるようにする学習活動 (対話的な学び)
	技術の見方・考え方を働かせる学習活動(深い学び) 技術分野で目指す資質・能力が総合的に活用・発揮される学習活動(深い学び)					

(3) 「技術の見方・考え方」を働かせた技術分野の学び

「技術」は単なる自然科学の応用ではなく、複数の側面から要求・条件を吟味し開発・利用が決定されるものである。「技術の見方・考え方」は今後遭遇する様々な技術に関する問題の解決場面においても働かせることができるという意味で技術分野の学びと社会とをつなぐものともいえる。

《各内容における「技術の見方・考え方」の具体例》 (A⇒解 P25 B⇒解 P32 C⇒解 P39 D⇒解 P47)

A 材料と加工の技術	捉え方	生活や社会における事象を「材料と加工の技術」との関わり視点で捉え、	C エネルギー変換の技術	捉え方	生活や社会における事象を「エネルギー変換の技術」との関わり視点で捉え、
	着目	社会からの要求、生産から使用・廃棄までの安全性、耐久性、機能性、生産効率、環境への負荷、資源の有限性、経済性などに着目し、		着目	社会からの要求、生産から使用・廃棄までの安全性、出力、変換の効率、環境への負荷や省エネルギー、経済性などに着目し、
	配慮	材料の組織、成分、特性や、組み合わせる材料の構造、加工の特性にも配慮し、		配慮	電気、運動、熱及び流体の特性にも配慮し、エネルギーを変換、伝達する方法等を最適化すること
	最適化	材料の製造方法や、必要な形状・寸法への成形方法を最適化すること		最適化	
B 生物育成の技術	捉え方	生活や社会における事象を「生物育成の技術」との関わり視点で捉え、	D 情報の技術	捉え方	生活や社会における事象を「情報の技術」との関わり視点で捉え、
	着目	社会からの要求、作物等を育成・消費する際の安全性、生産の仕組み、品質・収量等の効率、環境への負荷、経済性、生命倫理などに着目し、		着目	社会からの要求、使用時の安全性、システム、経済性、情報の倫理やセキュリティ等に着目し、
	配慮	育成する生物の成長、働き、生態の特性にも配慮し、		配慮	情報の表現、記録、計算、通信の特性にも配慮し、
	最適化	育成環境の調節方法を最適化すること		最適化	情報のデジタル化や処理の自動化、システム化による処理の方法等を最適化すること

(4) 内容構成の留意点等 【◎指導項目のねらい □内容の取扱い ※指導計画作成上の配慮事項 *学習活動の例示】

各内容(1)の項目	◎技術の仕組み、開発の経緯や意図を調べる活動などを通して、主な技術についての科学的な原理・法則と、基礎的な技術の仕組みを理解させるとともに、技術の見方・考え方に気付かせることをねらいとしている。 □第1学年の最初に扱う内容の「生活や社会を支える技術」を指導する場合、3年間の技術分野の学習の中でどのような技術について学ぶのかという学習の見直しを立てさせるとともに、生活や社会を支えている様々な技術について関心をもたせるために、内容のA材料と加工の技術からD情報の技術まで全ての技術の内容について触れるようにする。 □アで取り上げる原理や法則に関しては、関係する教科との連携を図る。 □イでは、社会からの要求、安全性、環境負荷や経済性などに着目し、技術が最適化されてきたこと(技術の見方・考え方)に気付かせる。 ※身の回りの製品などを観察したり、開発の経緯を調べたりして開発者が設計に込めた意図を読み取らせる。【3(2)】①	内容A・D共通	※各項目と各項目に示す事項の関連性や系統性に留意したり、他教科と関係する指導内容を確認した上で、適切な時期に分散して履修させる場合や特定の時期に集中して履修させる場合、3学年間を通して履修させる場合などを考えて計画的な履修ができるよう配慮する。【3(3)】 ※生徒に生活や社会と技術とのつながりを意識させるとともに、常に変化を続ける技術についての学習を充実するために、試験研究機関や民間企業、関係する科を設置する高等学校等との連携についても配慮する。【3(4)】
	◎生活や社会の中から見いだした問題を技術によって解決する活動を通して、技術の見方・考え方を働かせて、問題を見いだして課題を設定し解決できる力を育成するとともに、○○○(*1)ができるようにすることをねらいとしている。 □イでは、(1)のイで気付かせた技術の見方・考え方により問題を見いだして課題を設定し、自分なりの解決策を構想させる。【3(1)】②、【3(2)】② ※生徒が見いだした解決する問題は、生徒が解決できたという満足感・成就感を味わい、次の学びへと主体的に取り組む態度を育むよう、既存の技術を評価、選択、管理・運用することで解決できる問題から、改良、応用しなければ解決できない問題へと、解決に必要な資質・能力の発達視点から3年間を見通して計画的に設定するなど、各内容の履修の順序や配当する授業時数、及び具体的な指導内容などについては、各学校において適切に定めることが大切である。 □知的財産を創造、保護及び活用しようとする態度、技術に関わる倫理観、並びに他者と協働して粘り強く物事を前に進める態度を養うことを目指す。 ※課題の設定や生徒の新しい発想を認めるとともに、その発想が他の場面にも利用できるよう考えさせることで知的財産を生み出し活用することの価値に気付かせる。また、(1)での学習との対比から、生活や社会で利用されている技術に込められた工夫や創造性及びそれに関わる知的財産のすばらしさと、それらがどのように普及してきたかを改めて振り返らせ、知的財産を保護し、活用を図ることが新たな知的財産の創造につながることに気付かせる。 □製作・制作・育成場面で使用する工具・機器や材料等については、図画工作科等の学習経験を踏まえるとともに、安全や健康に十分に配慮して選択する。【3(1)】① □第3学年で取り上げる内容の「技術による問題解決」では、現代社会で活用されている多くの技術がシステム化されている実態に対応するために、これまでの学習を踏まえた統合的な問題について扱う。【3(4)】	A材料と加工の技術	*1 製作に必要な図をかき、安全・適切な製作や検査・点検等 □(1)については、我が国の伝統的な技術についても扱い、緻密なものづくりの技などが我が国の伝統や文化を支えてきたことに気付かせる。 □(2)の製作に必要な図については、主として等角図及び第三角法による図法を扱う。 ※課題の解決策を具体化する際には、3DCADや3Dプリンタを活用して試作させることも考えられる。
	◎各内容(1)における技術の見方・考え方の気付きや、各内容(2)及びD(3)における技術による問題解決の学習を踏まえ、社会の発展のための技術の在り方や将来展望を考える活動などを通して、生活や社会に果たす役割や影響に基づいて技術の概念を理解させるとともに、よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて、技術を評価し、適切に選択、管理・運用したり、新たな発想に基づいて改良、応用したりする力を育成することをねらいとしている。 □技術が生活の向上や産業の継承と発展、資源やエネルギーの有効利用、自然環境の保全等に貢献していることについても扱う。 *各内容の「技術による問題解決」の学習活動を振り返らせ、自らの問題解決の工夫を技術の見方・考え方に照らして捉えさせ、それらと「既存の技術の理解」で取り上げた既存の技術に込められた工夫との共通点を見いださせることで、技術の概念の理解を深める活動が考えられる。その上で、研究開発が進められている新しい技術の優れた点や問題点を整理し、よりよい生活や持続可能な社会の構築という観点から、適切な選択、管理・運用の在り方(未来に向けた新たな改良、応用)について話し合わせ、利用者と開発者の両方の立場から技術の将来展望について意思決定させて発表させたり、提言をまとめさせたりする活動が考えられる。【3(2)】③	B生物育成の技術	*1 安全・適切な栽培又は飼育、検査等 □(1)については、作物の栽培、動物の飼育及び水産生物の栽培のいずれも扱うこと。作物、動物及び水産生物の育成に共通する基礎的な生物育成の技術の仕組みを理解することができるようにする。 □(2)については、地域固有の生態系に影響を及ぼすことのないよう留意するとともに、薬品を使用する場合には、使用上の基準及び注意事項を遵守させる。
	◎各内容(1)における技術の見方・考え方の気付きや、各内容(2)及びD(3)における技術による問題解決の学習を踏まえ、社会の発展のための技術の在り方や将来展望を考える活動などを通して、生活や社会に果たす役割や影響に基づいて技術の概念を理解させるとともに、よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて、技術を評価し、適切に選択、管理・運用したり、新たな発想に基づいて改良、応用したりする力を育成することをねらいとしている。 □技術が生活の向上や産業の継承と発展、資源やエネルギーの有効利用、自然環境の保全等に貢献していることについても扱う。 *各内容の「技術による問題解決」の学習活動を振り返らせ、自らの問題解決の工夫を技術の見方・考え方に照らして捉えさせ、それらと「既存の技術の理解」で取り上げた既存の技術に込められた工夫との共通点を見いださせることで、技術の概念の理解を深める活動が考えられる。その上で、研究開発が進められている新しい技術の優れた点や問題点を整理し、よりよい生活や持続可能な社会の構築という観点から、適切な選択、管理・運用の在り方(未来に向けた新たな改良、応用)について話し合わせ、利用者と開発者の両方の立場から技術の将来展望について意思決定させて発表させたり、提言をまとめさせたりする活動が考えられる。【3(2)】③	Cエネルギー変換の技術	*1 安全・適切な製作、実装、点検及び調整等 □(1)については、電気機器や屋内配線等の生活の中で使用する製品やシステムの安全な使用についても扱う。 ※課題の解決策を具体化する際には、繰り返し試行錯誤できる実験装置やICTを活用したシミュレーション等を用いて試行・試作させることも考えられる。 ※LED、太陽光発電パネル、トランジスタ等の半導体素子、コンデンサ等の部品、昇圧回路や各種センサ等のモジュールを用いる場合、動作原理についての深入りは避け、必要に応じて(1)アと関連付けてその働きや用途等知らせ、電気回路の改良、応用に活用させるように配慮する。
◎各内容(1)における技術の見方・考え方の気付きや、各内容(2)及びD(3)における技術による問題解決の学習を踏まえ、社会の発展のための技術の在り方や将来展望を考える活動などを通して、生活や社会に果たす役割や影響に基づいて技術の概念を理解させるとともに、よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて、技術を評価し、適切に選択、管理・運用したり、新たな発想に基づいて改良、応用したりする力を育成することをねらいとしている。 □技術が生活の向上や産業の継承と発展、資源やエネルギーの有効利用、自然環境の保全等に貢献していることについても扱う。 *各内容の「技術による問題解決」の学習活動を振り返らせ、自らの問題解決の工夫を技術の見方・考え方に照らして捉えさせ、それらと「既存の技術の理解」で取り上げた既存の技術に込められた工夫との共通点を見いださせることで、技術の概念の理解を深める活動が考えられる。その上で、研究開発が進められている新しい技術の優れた点や問題点を整理し、よりよい生活や持続可能な社会の構築という観点から、適切な選択、管理・運用の在り方(未来に向けた新たな改良、応用)について話し合わせ、利用者と開発者の両方の立場から技術の将来展望について意思決定させて発表させたり、提言をまとめさせたりする活動が考えられる。【3(2)】③	D情報の技術	*1 情報通信ネットワークの構成と、情報を利用するための基本的な仕組み及び計測・制御システムの仕組みを理解させ、安全・適切なプログラムの制作、動作の確認及びデバッグ等 ※小学校において育成された資質・能力を土台に、生活や社会の中からプログラムに関わる問題を見いだして課題を設定する力、プログラミング的思考等を発揮して解決策を構想する力、処理の流れを図などに表し試行等を通じて解決策を具体化する力などの育成や、順次、分岐、反復といったプログラムの構造を支える要素等の理解を目指す。 ※情報活用能力を系統的に育成できるよう、プログラミングに関する学習やコンピュータの基本的な操作、発達段階に応じた情報モラルの学習、さらに、社会科第5学年における情報化が社会や産業に与える影響についての学習も含めた小学校における学習を発展させるとともに、中学校の他教科等における情報教育及び高等学校における情報関係の科目との連携・接続に配慮する。 □(1)については、情報のデジタル化の方法と情報の量、著作権を含めた知的財産権、発信した情報に対する責任、及び社会におけるサイバーセキュリティが重要であることについても扱う。 □(2)については、コンテンツに用いる各種メディアの基本的な特徴や、個人情報の保護の必要性についても扱う。 ※プログラムの命令の意味を覚えさせるよりも、課題の解決のために処理の手順(アルゴリズム)を考えさせることに重点を置くなど、情報の技術によって問題を解決できる力の育成を意識した実習となるよう配慮する。さらに、制作活動においては、アクチュエータなどの微細な動作設定が中心とならないように配慮する。	

2 家庭分野の内容、項目、事項について

家庭分野の内容の指導に当たっては、小学校における学習を踏まえるとともに、高等学校における学習を見据え、道徳科や他教科等の学習と関連を明確にして系統的・発展的に指導ができるよう配慮する。各項目及び各項目に示す事項については、相互に有機的な関連を図り、総合的に展開されるようにする。

(1) 各項目に示す内容、配慮事項、活動例及び小学校家庭科との関連

	内容、項目、事項のねらい *配慮事項 ○活動例 ☆小・高、各教科等との関連	小学校家庭科との関連
A 家族・ 家庭 生活	<p>(1) 自分の成長と家族・家庭生活 ア ガイダンスとしては、第1学年の最初に履修させ、中学校3学年間の学習の見通しをもたせる。学習を進める際にはA(2)又は(3)の導入として、自分の成長や生活は家族や家庭生活に関わる地域の人々に支えられていることに気付くようにする。 *家族・家庭の基本的な機能について、「生活の営みに係る見方・考え方」及び、BやCとの関連を図る。</p> <p>(2) 幼児の生活と家族 ア(ア) 幼児の心身の発達とそれを支える生活や、幼児期における周囲の人との信頼関係や生活習慣の形成の重要性が分かり、幼児にふさわしい生活を整える家族の役割を理解できるようにする。 (イ) 実践的・体験的な活動を通して遊びの意義や幼児との関わり方について理解できるようにする。 イ よりよい関わり方を工夫することができるようにする。【3(2)(3)】 *幼児と触れ合う活動については、地域の幼稚園、保育所、認定こども園などと連携しながら、効果的に実施できるように工夫するとともに、幼児及び生徒の安全に配慮する。</p> <p>(3) 家族・家庭や地域との関わり ア(ア) 互いの立場や役割が分かり、協力により家族関係をよりよくできることを理解できるようにする。 (イ) 自分の生活を支える家庭生活が地域との相互の関わりで成り立っており、高齢者など地域の人々と協働する必要性や、高齢者の身体の特徴を踏まえた関わり方について理解できるようにする。 *高齢者との関わり方について介護の基礎等体験的な活動を通して、実感を伴って理解できるようにする。 ☆高等学校の高齢者の介護に関する学習につなげるようにする。 イ 協力・協働などの視点から、家族や地域の人々との関わりについて考え、工夫することができるようにする。【3(2)(3)】 ☆道徳科「家族愛、家庭生活の充実」で用いた教材を活用し、指導する。【3(5)】</p> <p>(4) 家族・家庭生活についての課題と実践 ア 家族、幼児や地域の生活について課題を設定し計画、実践、評価・改善する問題解決的な学習を行う。【3(2)(3)】 *家庭や地域社会との連携を図り、実践的な活動を行うことができるよう配慮する。【3(4)】</p>	<p>A 家族・家庭生活</p> <p>1) 自分の成長と家族・家庭生活 ア自分の成長の自覚 家庭生活と家族の大切さ、家族との協力</p> <p>2) 家庭生活と仕事 ア家庭の仕事と生活時間 イ家庭の仕事の計画と工夫</p> <p>3) 家族や地域の人々との関わり ア(ア)家族との触れ合いや団らん (イ)地域の人々との関わり イ家族や地域の人々との関わり イの工夫</p> <p>4) 家族・家庭生活についての課題と実践 ア日常生活についての課題と計画、実践、評価</p>
	活動例	<p>○物語などを活用し、自分の成長とそれに関わってきた人々について振り返る</p> <p>○遊び道具や身体を使って一緒に遊んだり、絵本を読んだりする中で、幼児との関わり方を工夫する</p> <p>○物語の活用をしたり、ロールプレイングをしたりして、家族とのコミュニケーションを取り上げ、協力することの大切さについて話し合う</p> <p>○高齢者など地域の人々と関わり協働する方法について、地域との連携を図り、地域の祭りなどの行事や清掃、防災訓練等の活動を取り上げて、地域の人々と協働するための方法を検討する</p> <p>○幼児のための間食づくりや遊び道具の製作を行う等</p>
B 衣食住 の生活	<p>(1) 食事の役割と中学生の栄養の特徴 ア(ア) 日常の食生活を振り返ることを通して、生活の中で食事が果たす役割を理解できるようにする。 (イ) 中学生の身体的な特徴等を踏まえ、中学生に必要な栄養の特徴や心身の健康によい食習慣について理解できるようにする。 ☆中学生に必要な栄養の考え方が、高等学校ライフステージ別の栄養の特徴の学習につながることにも触れるようにする。 ☆理科[第2分野]「生物の体のつくりと働き」保健体育[保健分野]「健康な生活と疾病の予防」【3(3)】 イ 健康などの視点からよりよい食習慣について考え、工夫することができるようにする。【3(2)(3)】</p> <p>(2) 中学生に必要な栄養を満たす食事 ア(ア) 小学校における五大栄養素の基礎的事項を踏まえ、栄養素が相互に関連し、健康の保持増進や成長のために役立っていることを理解し、食品には複数の栄養素が様々な割合で含まれ、栄養的な特質によって食品群に分類されることを理解できるようにする。 ☆食品群については小学校で学習した栄養素の体内での主な三つの働きとの系統性を考慮して扱う。 (イ) 食品群を用いて、中学生の1日に必要な食品の種類と量が分かり、中学生に必要な栄養量を満たす1日分の献立作成の方法について理解できるようにする。 イ 中学生の1日分の献立について健康などの視点から考え、工夫することができるようにする。【3(2)(3)】 *1日3食のうち幾つかを指定して残りの献立を立案するなど、1日分の献立について全体的な栄養のバランスを考えることができるようにする。 ☆特別活動(学級活動)「食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成」【3(3)】</p> <p>(3) 日常食の調理と地域の食文化 ア(ア) 日常よく用いられている食品の品質を外観や表示などから見分けることができるようにするとともに、日常生活と関連付け、用途に応じて適切に選択ができるようにする。 食品添加物や残留農薬、放射線物質などは、基準値を設け、食品の安全を確保する仕組みがあることについても触れる。 (イ) 魚、肉、野菜を中心に日常よく用いられる食品や調理用具等を取り上げ、安全と衛生に留意した取り扱い方を理解し、適切に管理できるようにする。 ☆熱源については主に電気とガスの特徴を理解し、電気やガス用の器具を効率よく安全に取り扱うことができるようにする。小学校の学習を踏まえ、ガスの元栓の閉め忘れや電源の切り忘れがないようにする。 *調理用具の安全な使い方を視覚的に捉えられる掲示物で明示する。【3(1)】 (イ) 生徒や学校、地域の実態に応じて魚、肉、野菜を用いた題材を設定し、材料に適した加熱調理の仕方について理解し、基礎的な日常食の調理ができるようにする。 ☆小学校で学習した、ゆでる、いためる調理に加え、煮る、焼く、蒸す等を扱う。 *1品の調理実習を行う場合でも、1食分の献立例を考え、「中学生に必要な栄養を満たす食事」の学習と関連付け、栄養バランスを確認できるようにする。 (イ) 地域の食材を用いた和食の調理を扱い、地域の食材のよさや食文化について理解し、適切に調理ができるようにする。 ☆小学校で学習しただしの役割を踏まえ、だしの種類や料理に適しただしの取り方に気付くことができるようにする。 *地域との連携を図るようにする。 イ 健康・安全などの視点から、食品の選択や調理の仕方、調理計画を考え、工夫することができるようにする。【3(2)(3)】</p> <p>(4) 衣服の選択と手入れ ア(ア) 衣服の社会生活上の機能が分かり、時・場所・場合に応じた衣服の着用や個性を生かす着用、衣服の適切な選択について理解できるようにする。日本の伝統的な衣服である和服について触れる。 (イ) 衣服を計画的に活用することの必要性が分かり、衣服の材料や状態に応じた洗濯や補修等の手入れについて理解し、適切にできるようにする。 イ 健康・快適などの視点から、衣服の選択及び手入れの仕方を考え、工夫することができるようにする。【3(2)(3)】</p>	<p>B 衣食住の生活</p> <p>1) 食事の役割 ア食事の役割と食事の大切さ、日常の食事の仕方 イ楽しく食べるための食事の工夫の工夫</p> <p>2) 調理の基礎 ア(ア) 材料の分量や手順、調理計画 (イ) 用具や食器の安全で衛生的な取扱い、加熱用調理器具の安全な取扱い (イ) 材料に応じた洗い方、調理に適した切り方、味の付け方、盛り付け、配膳及び後片付け (イ) 材料に適したゆで方、いため方 (イ) 伝統的な日常食の米飯及びみそ汁の調理の仕方 イおいしく食べるための調理計画及び調理の工夫</p> <p>3) 栄養を考えた食事 ア(ア) 体に必要な栄養素の種類と働き (イ) 食品の栄養的な特徴と組合せ (イ) 献立に構成する要素、献立作成の方法 イ1食分の献立の工夫</p> <p>4) 衣服の着用と手入れ ア(ア) 衣服の主な働き、日常着の快適な着用方 (イ) 日常着の手入れ、ボタン付け及び洗濯の仕方 イ日常着の快適な着用方 イの手入れの工夫</p> <p>5) 生活を豊かにするための布を用いた製作 ア(ア) 製作に必要な材料や手順、製作計画 (イ) 手縫いやミシン縫いによる縫い方、用具の安全な取扱い</p>

B	衣食住	(5) 生活を豊かにするための布を用いた製作 ア 製作に必要な材料、用具、製作手順、時間等の見直しをもち、目的に応じた縫い方や製作方法、ミシンやアイロン等の用具の安全な取扱いについて理解し、製作が適切にできるようにする。 イ 快適・安全、持続可能な社会の構築などの視点から、製作計画を考え製作を工夫することができるようにする。【3(2)(3)】	イ生活を豊かにするための布を用いた物の製作計画及び製作の工夫
		(6) 住居の機能と安全な住まい方 ア(7)自分や家族の生活行為と住空間との関わり、住居の基本的な機能が理解できるようにする。 *住空間を想像できるような簡単な図や写真、動画などを用いて、家族の生活と住空間との関わりについて具体的に考えることができるようにする。 (4)家族が安心して住まうためには、住空間を安全な状態に整える必要があることが分かり、家庭内の事故を防ぎ、自然災害に備えるための住空間の整え方について理解できるようにする。 ☆保健体育科など、他教科等で行う防災に関する学習【3(3)】 イ 安全などの視点から、住空間の整え方について考え、工夫することができるようにする。 課題については、家庭や地域の生活から安全な住まい方に関する問題を見だし、設定する。【3(2)(3)】	6) 最適な住まい方 ア(7)住まいの主な働き、季節の変化に合わせた生活の大切さや住まい方 (4)住まいの整理・整頓や清掃の仕方 イ季節の変化に合わせた住まい方、整理・整頓や清掃の仕方の工夫
生活例	生活	(7) 衣食住の生活についての課題と実践 ア 衣食住の生活を見直して課題を設定し、計画、実践、評価・改善する問題解決的な学習を行う。【3(2)(3)】	
		○給食や弁当の献立や自分の食事内容の記録から、使われている食品の栄養成分を日本食品標準成分表で調べたり、食品群に分類したりすることを通して、食品の栄養的特質を確認する ○実習する献立や伝統的な郷土料理、自分で作る昼食の弁当の献立を中心に1日分の献立を考える ○地域又は季節の食材について調べ、それらを用いた和食の調理をする ○日常着の手入れについて、自分の衣服の材料に適した洗剤を選んだり、汚れの状態に応じて洗濯の仕方を考えたり、家庭で実践したりしたことについて、発表する	○様々な種類の布や縫い方の見本を参考にして、製作の用途に適した布や縫い方について話し合う ○衣服等を再利用した物を製作する ○地震の場合は、家具の転倒・落下・移動などの危険を予測し、危険な箇所を見付け出す ○自然災害への備えについて、家庭の避難マップや災害時の行動マニュアルを作成する ○(3)とC(2)「消費者の権利と責任」との関連を図り、環境に配慮して調理することを課題として設定し、計画を立てて実践する等
C	消費生活・環境	(1) 金銭の管理と購入 ア(7)キャッシュレス化の進行に伴って多様化した購入方法や支払い方法の特徴が分かり、収支のバランスを図るためには、生活に必要な物資・サービスについて金銭の流れを把握し、多様な支払い方法に応じた計画的な金銭管理が必要であることについて理解できるようにする。 購入方法や支払い方法の学習でインターネットを介した通信販売を扱う際には、技術分野の「個人情報保護の必要性」の学習との関連を図る。 ☆小学校での現金による店舗販売に関する学習を踏まえ、中学生の身近な消費行動と関連を図って扱う。計画的な金銭管理については、物資・サービスの購入や支払い場面を具体的に想定し学習を展開するよう配慮し、高等学校における長期的な経済計画や家計収支等についての学習につながるようにする。 ☆社会科[公民的分野]「現代社会を捉える枠組み」「市場の働きと経済」などとの関連を図る。【3(3)】 (4)売買契約の仕組みと関連させ、消費者被害が発生する背景及び被害を回避する方法や適切な対応の仕方について理解できるようにする。また、購入しようとする物資・サービスの選択に必要な情報を適切に収集・整理できるようにする。 *消費者被害とその対応について、国民生活センターの公表するデータの活用や、消費生活センターなど各種相談機関と連携し、中学生の身近な消費行動と関連を図った事例を取り上げるようにする。 ☆社会科[公民的分野]「市場の働きと経済」【3(3)】 イ 持続可能な社会の構築などの視点から物資・サービスの選択、購入方法、支払い方法等について考え、工夫することができるようにする。【3(2)(3)】	C 消費生活・環境 1) 物や金銭の使い方と買物 ア(7)買物の仕組みや消費者の役割、物や金銭の大切さ、計画的な使い方 (4)身近な物の選び方、買い方、情報の収集・整理 イ 身近な物の選び方 買い方の工夫 2) 環境に配慮した生活 ア 身近な環境との関わり、物の使い方 イ 環境に配慮した物の使い方の工夫
		(2) 消費者の権利と責任 ア 中学生の実際の消費生活と関わらせて、消費者の基本的な権利と責任や、自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響について具体的に理解できるようにする。 イ 持続可能な社会の構築等の視点から、自立した消費者としての責任ある消費行動を考え、工夫することができるようにする。【3(2)(3)】 消費者被害や、自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響などについて科学的な理解を深めるために、調査や実験などの実践的・体験的な活動を充実する。【3(2)(3)】 *中学生にとって身近な商品の購入場面を取り上げ、消費者の基本的な権利と責任との関連や、環境や社会に及ぼす影響について具体的に考え、自立した消費者としての意識を深められるようにする。	例示している【3(2)】及び【3(3)】については、授業を組み合わせる際に、題材など内容や時間のまともを見通してこれらの視点を働かせ、授業改善を進めることが求められる。
生活例	生活	(3) 消費生活・環境についての課題と実践 ア 消費生活を見直して課題を設定し、計画、実践、評価・改善する問題解決的な学習を行う。【3(2)(3)】	
		○中学生にとって身近な商品について、使用目的や予算、支払い方法などの条件を設定し、どこで、どのような購入の仕方をするのが目的に合っているのかを考え、発表し合う ○グループごとに異なる条件を設定したり、途中で条件を変えたりするなど、現実の生活場面における実践につなげる ○調理実習において、国産や地元産の食材を選んだ場合とそうでない場合について話し合う ○中学生にとって身近な事例について、どのような権利や責	任と関わっているのかを考えたり、権利を行使しなかった場合や責任を果たさなかった場合にどのような影響があるのかを話し合う ○環境負荷の小さいものを消費することの効果など、消費者としての責任ある消費行動について実践できることを話し合う ○消費者被害の背景に関するデータを調査してまとめたり、生活排水や消費電力等に関する実験したりする等

- (2) 空間軸や時間軸の視点を重視し、小・中・高等学校の体系化を図った指導計画
空間軸の視点では、家庭、地域、社会という空間的な広がりから、時間軸の視点では、これまでの生活、現在の生活、これからの生活、生涯を見通した生活という時間的な広がりから学習対象を捉え、学校段階を踏まえて指導内容を整理している。中学校における空間軸の視点は、主に家庭と地域、時間軸の視点は、これからの生活を展望した現在の生活である。児童生徒の発達を踏まえ、小・中・高等学校の各内容の接続が見えるように、小・中学校においては、「A 家族・家庭生活」、「B 衣食住の生活」、「C 消費生活・環境」を三つの内容とし、各内容及び各項目の指導が系統的に行えるようにしている。
- (3) 学習過程を踏まえた育成する資質・能力の明確化
生活の中から問題を見だし、課題を設定して解決方法を検討し、計画、実践、評価・改善するという一連の学習過程を重視する。この過程を踏まえ「知識及び技能」の習得に係る内容や、それらを活用し「思考力、判断力、表現力等」の育成に係る内容について整理している。各内容の各項目は、アとイの二つの指導事項で構成し、原則として、アは「知識及び技能」の習得に係る事項、イは、アで習得した知識及び技能を活用して「思考力、判断力、表現力等」を育成することに係る事項としている。指導事項アとイは、学習過程を踏まえ、関連を図って取り扱う。

3 3学年間を見通した指導計画例

(1) 指導計画例 1

◆については「統合的な問題」に関わるものとする

★については「生活の課題と実践」とする

学年	分野	時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35
第1学年	技術	題材	身のまわりを整理する作品を作って身近な生活の問題を解決しよう【20時間】 A (1)アイ (2)アイ (3)アイ										野菜の栽培技術をもとに食糧生産等に関わる問題を考えよう【15時間】 B (1)アイ (2)アイ (3)アイ																								
		指導内容	○3年間の学習の見直し(ガイダンス) ○技術の原理・法則と仕組み、身近な製品の問題解決の工夫 ○生活における問題の発見と課題の設定、条件を踏まえた課題の解決策の構想、安全・適切な製作、課題の解決結果の評価と修正 ○技術の評価と適切な選択、管理・運用										○技術の原理・法則と仕組み、栽培や飼育等の技術による問題解決の工夫 ○社会における問題の発見と課題の設定、条件を踏まえた課題の解決策の構想、安全・適切な栽培、育成の過程や結果の評価 ○技術の評価と適切な選択、管理・運用																								
第2学年	技術	題材	LEDライトの改善を通して持続可能な社会について考えよう【20時間】 C (1)アイ (2)アイ (3)アイ										簡易なチャットシステムの改善を通して身近な問題を解決しよう【15時間】 D (1)アイ (2)アイ																								
		指導内容	○技術の原理・法則と仕組み、技術に込められた問題解決の工夫 ○生活における問題の発見と課題の設定、条件を踏まえた課題の解決策の構想、安全・適切な製作、課題の解決結果の評価と修正 ○技術の評価と適切な管理・運用と改良										○技術の原理・法則と仕組み、情報の技術に込められた問題解決の工夫 ○ネットワークの構成と仕組み、社会における問題の発見と課題の設定、条件を踏まえた課題の解決策の構想、安全・適切なプログラムの制作、制作の過程や結果の評価																								
第3学年	技術	題材	食事の役割を見直し、食生活をより良いものにしよう【20時間】 B (1)ア (7) (4)イ (2)ア (7) (4)イ (3)ア (7) (4)イ (4)イ										快適で安全な住まいを工夫しよう【13時間】 B (6)ア (7) (4)イ																								
		指導内容	○食事の役割と中学生の栄養の特徴 ○肉・魚・野菜等を使った日常食の調理と地域の食文化										○住居の機能と安全な住まい方 ～我が家や地域の安全点検と対策～																								
第3学年	技術	題材	栽培ロボットのモデル開発を通して社会的な問題を解決しよう【17時間】 D (3)アイ (4)アイ ◆B (1)アイ (2)アイ (3)アイ										【A 20H B 15H C 20H D 32H】 ◇ 段階的・系統的に資質・能力の育成を図る指導計画例 ・ 問題解決の範囲を身近な生活の不便さから既存の技術の改善、社会的な問題へと段階的に広げるとともに、課題解決の難易度を系統的に上げるようにしている。 ◆ 内容Bの学習内容を解決する課題として扱う統合的な問題																								
		指導内容	○計測・制御システムの仕組み、社会における問題の発見と課題の設定、条件を踏まえた課題の解決策の構想、安全・適切なプログラムとモデルの制作、課題の解決結果の評価と修正 ○技術の評価と適切な選択、管理・運用、改良と応用										【A 16H B 51H C 14H 課 7H】 ◇ 小・中・高の系統性をより一層重視した指導計画例 ・ 生活の課題と実践を各学年に配置している。特に1、2年生においては長期休業中に実践することで、学習のまとめや振り返りを行い、新たな課題やこれからの家庭生活に展望を持たせることができる設定としている。																								
第3学年	家庭	題材	家族の一員から地域の一員へと成長しよう【15時間】 A (2)ア (7) (4)イ (3)ア (7) (4)イ										★ 【3時間】 A (4)ア																								
		指導内容	○自分の成長と家族・家庭生活 ○幼児の生活と家族～幼児とのふれ合い体験～ ○家族・家庭や地域との関わり～高齢者介助体験～																																		

(2) 指導計画例 2

◆については「統合的な問題」に関わるものとする

★については「生活の課題と実践」とする

学年	分野	時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35
第1学年	技術	題材	伝統的なものづくりの技術から、技術と生活や社会との関わりを考えよう【20時間】 A (1)アイ (2)アイ (3)アイ										伝統的な生物育成の技術をもとに、技術の継承と発展について考えよう【15時間】 B (1)アイ (2)アイ (3)アイ																								
		指導内容	○3年間の学習の見直し(ガイダンス) ○日本古来の材料製造技術や建築技術、目的に合わせた材料の改良、形状や構造の組み合わせ ○伝統的な技術等による製品や構造物の工夫をもとにした身近な不便さの改善 ○改良・工夫されてきた伝統的な技術や新しい技術による快適性、生産性等の向上										○伝統農法や施設栽培などの技術の変遷 ○花卉の開花時期調節と栽培技術による環境の整備 ○改良・工夫されてきた伝統的な技術やバイオテクノロジー等の先端技術による、食料や燃料の効率的・安定的な供給や安全性の向上																								
第1学年	家庭	題材	私と家庭・地域を考えよう【5時間】 A (1)ア (3)ア (7) (4)イ					快適で安全な住まいについて考えよう【8時間】 B (6)ア (7) (4)イ					快適で豊かな衣生活ができるようにしましょう【10時間】 B (4)ア (7) (4)イ (5)アイ					安心・安全な消費生活や環境について考えよう【12時間】 C (1)ア (7) (4)イ (2)アイ																			
		指導内容	○ガイダンス ○自分の成長と家族・家庭生活 ○家族・家庭や地域との関わり					○家族の生活と住空間、住居の基本的機能と和室と洋室の住まい方の工夫 ○家族の安全を考えた住空間の整え方					○衣服の社会生活の働き、和服の文化、個性や目的に応じた着用 ○衣服の選択、日常着の手入れの仕方 ○生活を豊かにするための布を用いた物の製作					○金銭の管理と購入 ○消費者の権利と責任 ○消費行動が環境や社会に及ぼす影響、自立した消費行動の工夫																			
第2学年	技術	題材	からくり人形のしくみを調べて、現在の技術との関わりを探ってみよう【20時間】 C (1)アイ (2)アイ (3)アイ										インターネット上での情報活用の利便性や安全性について考えよう【15時間】 D (1)アイ (2)アイ																								
		指導内容	○からくり人形の動力伝達の仕組みを調査、身近な製品から開発の経緯を調査 ○必要とする機能を持ちつつ、使用者の安全や保守点検のしやすさなどの改善 ○新しい技術による快適性、労働や作業の軽減、交通・運輸の効率性や製品の生産性の向上										○発信者として担うべき責任、情報セキュリティ・サイバーセキュリティの重要性、デジタル化した情報を安心して使用する必要を手立て ○情報の表現や交流の身近な便利さと不向きに関する問題解決																								
第2学年	家庭	題材	健康によい食生活ができるようにしましょう【27時間】 B (1)ア (7) (4)イ (2)ア (7) (4)イ (3)ア (7) (4)イ (4)イ										★ 【4時間】 B (7)ア										地域の食文化を知ろう【4時間】 B (3)ア (7) (4)イ (4)イ														
		指導内容	○食事の役割と栄養素の種類と働き、中学生の栄養の特徴 ○中学生に必要な栄養を満たす食品の種類と概量、1日分の一汁三菜の献立作成 ○用途に応じた食品の選択 ○肉、魚、野菜を使った日常食の調理																				○地域の方から学ぶ郷土料理や食文化														
第3学年	技術	題材	今と未来をつなぐ自動運転自動車のモデルを開発しよう【18時間】 D (3)アイ (4)アイ ◆C (1)アイ (2)アイ (3)アイ										【A 20H B 15H C 20H D 33H】 ◇ 技術の継承と発展から技術の在り方を考える指導計画例 ・ 今でも使われている伝統的な技術、発展してきた技術等から生活や社会と技術との関わりを系統的に考えさせるようにしている。 ◆ 内容Cの学習内容を課題解決の手立てに生かす統合的な問題																								
		指導内容	○使用者の安全に配慮した自動運転自動車のプログラムの設計とモデルの開発 ○生活や社会における人工知能の活用																																		
第3学年	家庭	題材	家族の一員から地域の一員になろう【13時間】 A (2)ア (7) (4)イ										★ 【4時間】 A (4)ア B (7)ア C (3)ア																								
		指導内容	○幼児の生活と家族 ○幼児の発達と生活の特徴、家族の役割 ○幼児の遊びの意義、幼児との関わり方の工夫～伝承遊び、民話の読み聞かせ、地域の食材を使ったおやつなど～																																		

(3) 指導計画例3

◆については「統合的な問題」に関わるものとする

★については「生活の課題と実践」とする

学年	分野	時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35
第1学年	技術	題材	目的に応じた生物育成の技術をもとに、環境保全について考えよう【15時間】 B(1)アイ(2)アイ(3)アイ										先人のアイデアをもとに、生活を豊かにする技術を考えよう【20時間】 A(1)アイ(2)アイ(3)アイ																								
		指導内容	○3年間の学習の見直し(ガイダンス) ○目的に応じた育成環境の調節方法や栽培方法と環境に配慮した工夫 ○環境負荷の低減を条件とした育成環境の調節方法、地球温暖化を防止する作物等の選択と利用 ○生産する作物の種類や利用する加工品の検討及び調査										○環境への負荷、生産から使用・廃棄に至るまでの技術に込められた工夫とその活用 ○再資源化を前提とした材料及び加工法の選択、安全性や耐久性などに配慮 ○材料の成分や組織を改良する技術や新しい成形技術による安全性や耐久性の向上、再資源化の推進																								
第1学年	家庭	題材	自分の成長と家族【3時間】 A(1)ア					賢い消費者になろう【7時間】 C(1)ア(7)(4)イ(2)ア					食生活を見直そう【25時間】 B(1)ア(7)(4)イ(2)ア(7)(4)イ(3)ア(7)(4)(7)イ(5)イ C(2)ア																								
		指導内容	○ガイダンス ○自分の成長と家族 ○家族・家庭の機能					○購入方法・支払い方法 ○計画的な金銭管理 ○消費者被害への対応 ○商品選択に必要な情報 ○買い物シミュレーション					○食事の役割 ○中学生に必要な栄養の特徴 ○健康によい食習慣 ○栄養素の種類と働き ○食品の栄養的特質 ○1日に必要な食品の種類と概量 ○1日分の献立作成 ○1日分の献立作成 ○地産地消を考えた食品の選択 ○肉・野菜等を使った日常食の調理～環境を意欲したエコクッキング～																								
第2学年	技術	題材	アイデアをいかした環境にやさしいエネルギー変換の技術を考えよう【20時間】 C(1)アイ(2)アイ(3)アイ										メディアを効果的に利用したコンテンツの制作から情報の技術について考えよう【15時間】 D(1)アイ(2)アイ																								
		指導内容	○身の回りの製品の力学的な機構の要素や構成に込められた工夫とその活用 ○課題の設定及び解決のアイデアとその活用に対する価値への気づき、その保護と適切な活用 ○最新の電気機器について販売、使用、廃棄等の全ての段階における環境負荷を総合評価										○著作権を含めた知的財産権の概要 ○制作するコンテンツの中で他者の知的財産の保護と適切な活用																								
第2学年	家庭	題材	環境に配慮できる賢い消費者になろう【5時間】 C(2)アイ					消費や環境も考えた豊かな衣生活を工夫しよう【17時間】 B(4)ア(7)(4)イ(5)アイ C(2)ア					楽しく豊かに食べよう【2時間】 B(3)ア(7)～(1)					安全に気持ちよく住もう【7時間】 B(6)ア(7)(4)イ																			
		指導内容	○環境に与える影響～ごみ～ ○エネルギー削減の意義や方法 ○見直そう自分の消費生活					○衣服と社会生活との関わり ○衣服の選択 ○日常着の手入れ ○製作する物に適した材料や縫い方 ○環境に配慮し生活を豊かにするための布を用いた物の製作					○目的に応じた着用や個性を生かす着用 ○環境を考えた衣服の計画的な活用 ○見直そう自分の衣生活 ○用具の安全な取扱い					○地域の食文化 ○地域食材と郷土料理					★【4時間】 B(7)ア C(3)ア ○家族の生活と住空間との関わり ○住居の基本的な機能 ○家庭内事故の防ぎ方 ○安全な住まい方 ○見直そう自分の住生活														
第3学年	技術	題材	環境に配慮した栽培ロボットのモデルを考えよう【18時間】 D(3)アイ(4)アイ ◆B及びC(1)アイ(2)アイ(3)アイ										技術分野																								
		指導内容	○管理作業を自動的に行う既存の計測・制御システムを改善したロボットのモデル開発 ○情報システムの技術が地球の環境問題の調査や環境の保全への貢献										【A 20H B 15H C 20H D 33H】 ◇ 知的財産の創造・保護及び活用、技術の安全性や社会・産業・環境への影響と貢献に重きを置いた指導計画例 ・「技術による問題解決」で知的財産の創造、保護及び活用等をしよとする態度の育成を系統的に図るようになっている。 ◆ 例1、2のような考え方を複合的に扱う統合的な問題																								
第3学年	家庭	題材	自分の成長を見つめよう【9時間】 A(2)ア(7)(4)イ C(2)ア					★【3時間】 A(4)ア					家族・家庭や地域との関わり【5時間】 A(3)ア(7)(4)イ					作成のポイント																			
		指導内容	○幼児の発達、生活の特徴、家族の役割 ○幼児の遊びの意義～おもちゃ(積み木)遊びを通してフェアトレードを学ぶ～ ○幼児とのふれ合い体験、よりよい関わり方 ○実践報告会					○よりよい家族関係 ○家庭と地域の関わり ○高齢者との関わり方 ○見直そう家庭生活					【A 16H B 46H C 18H 課 7H】 ◇ 自立した消費生活を目指した指導計画例 ・C消費生活・環境の内容を各学年に配置し、継続的に内容Cを学習できるように、内容AやBの学習と関連を図り、身近な問題から地域、世界へと視野を広げられるようになっている。																								

(4) 指導計画例4

◆については「統合的な問題」に関わるものとする

★については「生活の課題と実践」とする

学年	分野	時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35
第1学年	技術	題材	自然災害から身を守り、快適な生活環境が維持できる技術を考えよう【20時間】 A(1)アイ(2)アイ(3)アイ										安定した食生活を送るために自然環境の影響を受けない技術を考えよう【15時間】 B(1)アイ(2)アイ(3)アイ																								
		指導内容	○3年間の学習の見直し(ガイダンス) ○現代の住宅や高層建築物における耐震・制震・免震構造や防災の技術 ○自然環境の保全や防災などに関わる社会的な問題の解決に向けた既存の製品の強度等の向上 ○利用者や開発者の両方の立場からの技術の将来展望について										○品質向上、生産性を高める農家が用いる栽培技術 ○消費する際の安全や収穫量等の安定及び環境への負荷の低減、水耕栽培の計画・育成、 ○消費者と、生産者や開発者の両方の立場からの将来展望について																								
第1学年	家庭	題材	考えよう 食生活【25時間】 A(1)ア B(1)ア(7)(4)イ(2)ア(7)(4)イ(3)ア(7)(4)(7)イ															見つめよう 衣生活【7時間】 B(4)ア(7)(4)イ					★【3時間】 B(7)ア														
		指導内容	○ガイダンス ○家庭と家族関係 ○孤食から考える健康的な食習慣 ○食事の役割 ○中学生に必要な食品の種類と概量 ○食品の栄養的特質 ○1日分の献立作成 ○食品の選択 ○食品や調理器具等の管理 ○肉・魚・野菜等を使った日常食の調理															○衣服と社会生活との関わり ○目的や個性に応じた着用 ○衣服の計画的な活用や選択																			
第2学年	技術	題材	ネットワーク上で誰もが安心して使える双方向性のあるコンテンツを考えよう【15時間】 D(1)アイ(2)アイ(4)アイ										自然環境を保全しつつ生活環境が維持・発展できる技術について考えよう【20時間】 C(1)アイ(2)アイ(3)アイ																								
		指導内容	○ネットワーク上でのルールやマナーの遵守、危険の回避等 ○ユニバーサルデザインの視点による安心・安全な利用、健康への配慮 ○IoTを取り入れた生活や社会の在り方について										○自然界のエネルギー資源を利用している発電システムの変換効率や環境への負荷 ○製作や使用に伴う廃棄物や排出物の低減を条件とした電気回路や機構等 ○最新の電気機器について、販売、使用、廃棄等のすべての段階における環境負荷の評価																								
第2学年	家庭	題材	目指そう 賢い消費者【11時間】 C(1)ア(7)(4)イ(2)アイ					受け継ごう地域の食文化【5時間】 B(3)ア(7)(4)イ(5)イ					工夫しよう 衣生活・住生活【16時間】 B(5)アイ(6)ア(7)(4)イ										★【3時間】 B(7)ア														
		指導内容	○消費者の基本的な権利と責任 ○消費生活の影響 ○責任ある消費行動 ○購入方法や支払いの方法 ○計画的な金銭管理 ○売買契約の仕組み ○消費者被害 ○物質サービスの選択 ○購入について					○中学生の1日分の献立 ○地域の食文化 ○地域を生活かした調理					○製作する物に適した材料や縫い方 ○布を用いた物の製作・安全な住空間の整え方 ○高齢者と幼児の疑似体験 ○住居の基本的な機能																								
第3学年	技術	題材	高齢者にやさしいロボットのモデルを考えよう【17時間】 D(1)アイ(3)アイ(4)アイ ◆A及びC(1)アイ(2)アイ(3)アイ										技術分野																								
		指導内容	○家庭生活における計測・制御システムによる自動化 ○生活における身近な不便さや危険性に対する必要な機能をもったロボットのモデル開発 ○研究開発が進められている新しい情報の技術の優れた点や問題点について										【A 20H B 15H C 20H D 32H】 ◇ 社会からの要求を技術で叶えようとする指導計画例 ・計画的な外部連携により、生活や社会と技術とのつながりを意識させたり、変化し続ける技術の学習の充実が図れるようになっている。 ◆ 内容A及び内容Bの学習内容を有機的に関連付け、課題解決の手立てに生かす統合的な問題																								
第3学年	家庭	題材	絆を深めよう 家族と地域【15時間】 A(1)ア(2)ア(7)(4)イ(3)ア(7)(4)イ										★【3時間】 A(4)ア					作成のポイント																			
		指導内容	○自分の成長と家族 ○高齢者、地域の人々との交流 ○幼児の遊びと関わり方 ○幼児の発達と生活 ○家族の役割と協力 ○幼児との触れ合い体験										【A 16H B 52H C 11H 課 9H】 ◇ 少子高齢化など社会の変化に対応することを目指した指導計画例 ・家族や地域の人々とよりよく関わる力を育成するために、実践的・体験的な学習活動を充実させている。																								

4 技術分野の指導計画例

(1) 段階的・系統的に資質・能力の育成を図る指導計画例

※ 例示している【3(2)】及び【3(3)】については、授業を組み立てる際に、題材など内容や時間のまとまりを見通してこれらの視点を働かせ、授業改善を進めることが求められている。【3(1)～(5)】はすべての授業時間で実施している。

要素	指導事項	指導内容【相当時間】	指導上の留意点
題材1 身のまわりを整理する作品を作って身近な生活の問題を解決しよう【20時間】			
生活や社会における技術	材料や加工の特性などの原理・法則と基礎的な技術の仕組み A(1)ア 技術に込められた問題解決の工夫 A(1)イ	<p>既存の技術の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ○3年間の学習の見直し(ガイダンス) ・3学年間で学習する技術 ・生活や社会を支えている様々な技術 <p>○技術の原理・法則と仕組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・材料や加工の特性 ・成形、切断、切削加工等の方法 <p>○身近な製品の問題解決の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの製品に込められた開発者の設計意図の読み取り ・材料及加工の技術が安全性、機能性、環境への負荷などに着目し、最適化されてきたこと(技術の見方・考え方)への気付き 	<ul style="list-style-type: none"> ・理科における植物の体のつくりと働きや原子・分子等の物質の成り立ちなど、関係する指導内容を確認した上で、連携が図れるよう配慮する。【3(3)】① ・製品などを観察したり、開発の経緯などを調べたりすることを通して、開発者が設計に込めた意図を読み取らせる。【3(2)】① ・生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、その解決に向けた解決策の検討、計画、実践、評価、改善といった一連の学習活動の中で、技術の見方・考え方を働かせながら課題の解決に向けて自分の考えを構想したり、表現したりさせる。【3(2)】② ・周囲の状況に気が散りやすく、加工用の工具や機器を安全に使用することが難しい場合には、障害の状態に応じて、手元に集中して安全に作業に取り組めるように、…(後略)【3(1)】① ・算数・数学科、図画工作・美術科等の様々な立体物の表示・表現方法との関連に配慮する。【3(3)】① ・使用する工具・機器や材料等については、図画工作科等の学習経験や生活場面での使用経験などの生徒の実態を踏まえ、安全や健康に十分配慮して選択する。【3(3)】②
	技術による問題の解決	<p>課題の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生活における問題の発見と課題の設定 ・身近な生活の不便さから利便性、安全性、環境への負荷などに関する問題の発見と、必要な機能や構造などといった課題の設定 <p>↓設定した課題の評価と修正↑</p> <p>技術に関する科学的な理解に基づいた設計</p> <ul style="list-style-type: none"> ○条件を踏まえた課題の解決策の構想 ・材料及びその加工方法や、製作品の機能、構造等の選択 ・適切な図法を用いた製作に必要な図 <p>↓試作による設計の評価と修正↑</p> <p>課題解決に向けた製作</p> <ul style="list-style-type: none"> ○安全・適切な製作 ・安全・適切な工具や機器の使用による製作 ・設計に基づく合理的な解決作業 <p>↓検査による製作の過程の評価と修正↑</p> <p>成果の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ○課題の解決結果の評価と修正 ・解決結果及び解決過程の評価と改善及び修正 	
社会と技術の発展	生活や社会、環境との関わりを踏まえた技術の概念 A(3)ア 技術の評価、選択と管理・運用、改良と応用 A(3)イ	<p>次の問題の解決の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○技術の評価と適切な選択、管理・運用 ・材料及加工の技術について、安全性、機能性、環境への負荷などの多様な視点による評価 ・評価に基づく技術の(見方・考え方を働かせた)適切な選択、管理・運用 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在及び将来を見据えて、生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、見通しをもって解決に取り組むとともに、学習の過程を振り返って実践を評価、改善させる。【3(2)】③
題材2 野菜の栽培技術をもとに食糧生産等に関わる問題を考えよう【15時間】			
生活や社会における技術	生物の成長などの原理・法則と基礎的な技術の仕組み B(1)ア 技術に込められた問題解決の工夫 B(1)イ	<p>既存の技術の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ○技術の原理・法則と仕組み ・成長の仕組み、分類・育種、生理・生態の特性 ・育成環境を調節する方法 <p>○栽培や飼育の技術による問題解決の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・育成環境の調節方法に込められた生産者や開発者の意図の読み取り ・生物育成の技術が、育成・消費する際の安全性、環境への負荷などに着目し、最適化されてきたこと(見方・考え方)への気付き 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校理科における季節と生物、植物の発芽、成長、結実、生物と環境、及び中学校理科における植物の体のつくりと働き、動物の体のつくりと働きなど、関係する…(後略)【3(3)】① ・品種を比較したり、肥料の働きや効果を比較したりすることや、育成環境の調節方法を調べたりすることを通して、開発者が…(後略)【3(2)】① ・生徒に生活や社会と技術とのつながりを意識させる学習の充実を図るために、農業試験場や地域農家との連携を検討する。【3(4)】① ・生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、その解決に向けた解決策の検討、計画、実践、評価、改善といった一連の学習活動の中で、技術の見方・考え方を働かせながら課題の解決に向けて自分の考えを構想したり、表現したりさせる。【3(2)】② ・使用する資材、用具、設備等については小学校での学習経験や生活場面での使用経験などの生徒の実態を踏まえ、安全や健康に十分配慮して選択する。【3(3)】②
	技術による問題の解決	<p>課題の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ○社会における問題の発見と課題の設定 ・身近な生活から食糧生産に関わる安全性などに関する問題の発見と、野菜の品質・収穫量の向上などといった課題の設定 <p>↓設定した課題の評価と修正↑</p> <p>技術に関する科学的な理解に基づいた計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ○条件を踏まえた課題の解決策の構想 ・育成環境の調節方法の選択 ・育成計画の作成 <p>↓育成計画の評価と修正↑</p> <p>課題解決に向けた育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○安全・適切な栽培 ・資材や用具等を利用した成長段階に応じた管理作業 ・計画に基づく合理的な解決作業 ・試行等を通じた解決策の具体化 <p>↓管理作業の評価と修正↑</p> <p>成果の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ○育成の過程や結果の評価 ・解決結果及び解決過程の評価と改善及び修正 	
社会と技術の発展	生活や社会、環境との関わりを踏まえた技術の概念 B(3)ア 技術の評価、選択と管理・運用、改良と応用 B(3)イ	<p>次の問題の解決の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○技術の評価と適切な選択、管理・運用 ・生物育成の技術について、育成・消費する際の安全性、品質・収穫量の効率、環境への負荷などの多様な視点による評価 ・評価に基づく技術の(見方・考え方を働かせた)適切な選択、管理・運用 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在及び将来を見据えて、生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、見通しをもって解決に取り組むとともに、…(後略)【3(2)】③ ・常に変化を続ける技術についての学習の充実を図るために農業試験場との連携を検討する。【3(4)】②
題材3 LEDライトの改善を通して持続可能な社会について考えよう【20時間】			
生活や社会における技術	電気、運動、熱の特性などの原理・法則と基礎的な技術の仕組み C(1)ア 技術に込められた問題解決の工夫 C(1)イ	<p>既存の技術の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ○技術の原理・法則と仕組み ・電気、運動、熱の特性、エネルギーの変換や伝達等の仕組み ・保守点検の必要性 <p>○技術に込められた問題解決の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・製品に込められた開発者の設計意図の読み取り ・エネルギー変換の技術が生産から使用・廃棄までの安全性、環境への負荷や省エネルギーなどに着目し、最適化されてきたこと(見方・考え方)への気付き 	<ul style="list-style-type: none"> ・理科におけるエネルギー、電気、磁気、圧力、運動など、関係する指導内容を確認した上で、連携が図れるよう配慮する。【3(3)】① ・エネルギー変換の技術が用いられている製品について各種資料を用いて開発の経緯を調べたり、簡単な製品を観察、分解・組立てたりすることを通して、開発者が…(後略)【3(2)】①
	技術による問題の解決	<p>課題の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生活における問題の発見と課題の設定 ・既存の製品から使用、廃棄までの安全性や環境への負荷に関する問題の発見と、付加的な機能の追加などといった課題の設定 	

	指導事項	指導内容【担当時間】	指導上の留意点
技術による問題の解決	問題の発見と課題の設定、電気回路や力学的な機構などの構想と設計の具体化、製作の過程や結果の評価、改善及び修正 C(2)イ	↓設定した課題の評価と修正↑ 技術に関する科学的な理解に基づいた設計 ○条件を踏まえた課題の解決策の構想 ・基本となる電気回路の改良 ・回路図の作成	え方を働かせながら課題の解決に向けて自分の考えを構想したり、表現したりさせる。【3(2)】② ・周囲の状況に気が散りやすく、加工用の工具や機器を安全に使用することが難しい場合には、障害の状態に応じて、手元に集中して安全に作業に取り組めるように、個別の対応ができるような作業スペースや作業時間を確保したり、作業を補助するジグを用いたりすることが考えられる。【3(1)】① ・使用する工具・機器、部品や材料等については、小学校での学習経験や生活場面での使用経験などの生徒の実態を踏まえ、…(後略)【3(3)】②
		↓試行・試作による設計の評価と修正↑ 課題解決に向けた製作 ○安全・適切な製作 ・安全・適切な工具や機器の使用による製作、点検及び調整 ・設計に基づく合理的な解決作業 ・電気回路や力学的な機構の実装	
社会の技術の発展	生活や社会、環境との関わりを踏まえた技術の概念 C(3)ア 技術の評価、選択と管理・運用、改良と応用 C(3)イ	↓動作確認による評価と修正↑ 成果の評価 ○課題の解決結果の評価と修正 ・解決結果及び解決過程の評価と改善及び修正	・現在及び将来を見据えて、生活や社会の中から問題を見いだし課題を設定し、見直しをもって解決に取り組むとともに、学習の過程を振り返って実践を評価、改善させる。【3(2)】③
		次の問題の解決の視点 ○技術の評価と適切な選択 ・エネルギー変換の技術について安全性、環境への負荷や省エネルギー、経済性などの多様な視点による評価 ・評価に基づく技術の(見方・考え方を働かせた)適切な管理・運用と改良	
題材4 簡易なチャットシステムの改善を通して身近な問題を解決しよう【15時間】			
生活や社会における技術	情報の表現の特性などの原理・法則と基礎的な技術の仕組み D(1)ア 技術に込められた問題解決の工夫 D(1)イ	既存の技術の理解 ○技術の原理・法則と仕組み ・情報のデジタル化による表現 ・単純な処理の組み合わせによる機能の実現 ・2進数や16進数等による計算及び記憶装置等への記録 ・IPアドレス等の通信の特性 ○情報の技術による問題解決の工夫 ・情報提供サービスに込められた開発者の設計意図の読み取り ・情報の技術が社会からの要求、安全性、情報の倫理やセキュリティなどに着目し、最適化されてきたこと(見方・考え方)への気付き	・理科における電気や光、音の性質や数学における単位の概念や数式の意味等、…(後略)【3(3)】① ・生活や社会を支える情報の技術について調べる活動などにおける、仕組みの理解に基づく情報モラルの内容を踏まえた指導などが考えられる。【3(5)】 ・情報提供サービス、情報処理サービス、デジタル家電製品などの情報の技術の仕組み、開発の経緯、機能や特徴などを調べたりすることを通して、…(後略)【3(2)】① ・生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、その解決に向けた解決策の検討、計画、実践、評価、改善といった一連の学習活動の中で、…(後略)【3(2)】② ・新たなプログラムを設計することが難しい場合は、生徒が考えやすいように、教師があらかじめ用意した幾つかの見本となるプログラムをデータとして準備し、一部を自分なりに改良できるようにするなど、難易度の調整や段階的な指導に配慮することが考えられる。【3(1)】② ・ここで使用するプログラミング言語は、小学校での関連する学習経験など生徒の実態を踏まえるとともに、課題の解決に必要な機能、プログラムの制作やデバッグのしやすさ、(3)で使用する言語との関連などに配慮して選択する。【3(3)】③
		課題の設定 ○ネットワークの構成と仕組み ・コンピュータ同士を接続する方法 ・情報通信ネットワークの構成 ・サーバやルータ等の働き ・パケット通信やWebでの情報の表現 ○社会における問題の発見と課題の設定 ・簡易なチャットシステムから利便性や情報セキュリティ等に関する問題の発見と、必要な機能をもつコンテンツの追加などといった課題の設定 ↓設定した課題の評価と修正↑ 技術に関する科学的な理解に基づいた設計 ○条件を踏まえた課題の解決策の構想 ・必要な機能と利便性、安全性を高める機能の検討 ・基本となるアクティビティ図やアルゴリズムの改良 ↓プログラムの試行・試作による評価と改善及び修正↑ 課題解決に向けた制作 ○安全・適切なプログラムの制作 ・情報処理の手順や構造の入力 ・プログラムの編集・保存 ↓動作確認、デバッグによる評価と修正↑ 成果の評価 ○制作の過程や結果の評価 ・解決結果及び解決過程の評価と改善及び修正	
技術による問題の解決	情報通信ネットワークの構成、安全に情報を利用するための仕組み、安全・適切な制作、動作の確認、デバッグ等 D(2)ア 問題の発見と課題の設定、成形の方法などの構想と設計の具体化、製作の過程や結果の評価、改善及び修正 D(2)イ	課題の設定 ○ネットワークの構成と仕組み ・コンピュータ同士を接続する方法 ・情報通信ネットワークの構成 ・サーバやルータ等の働き ・パケット通信やWebでの情報の表現 ○社会における問題の発見と課題の設定 ・簡易なチャットシステムから利便性や情報セキュリティ等に関する問題の発見と、必要な機能をもつコンテンツの追加などといった課題の設定 ↓設定した課題の評価と修正↑ 技術に関する科学的な理解に基づいた設計 ○条件を踏まえた課題の解決策の構想 ・必要な機能と利便性、安全性を高める機能の検討 ・基本となるアクティビティ図やアルゴリズムの改良 ↓プログラムの試行・試作による評価と改善及び修正↑ 課題解決に向けた制作 ○安全・適切なプログラムの制作 ・情報処理の手順や構造の入力 ・プログラムの編集・保存 ↓動作確認、デバッグによる評価と修正↑ 成果の評価 ○制作の過程や結果の評価 ・解決結果及び解決過程の評価と改善及び修正	・生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、その解決に向けた解決策の検討、計画、実践、評価、改善といった一連の学習活動の中で、…(後略)【3(2)】② ◆気温や湿度の計測結果に基づき、内容Bの学習内容に関わる灌水などの管理作業を計測・制御システムで自動的に行う栽培ロボットの開発(統合的な問題) ・新たなプログラムを設計することが難しい場合は、生徒が考えやすいように、教師があらかじめ用意した幾つかの見本となるプログラムをデータとして準備し、一部を自分なりに改良できるようにするなど、難易度の調整や段階的な指導に配慮することが考えられる。【3(1)】② ・ここで使用するプログラミング言語は、小学校での関連する学習経験など生徒の実態を踏まえるとともに、課題の解決に必要な機能、プログラムの制作やデバッグのしやすさ、(2)で使用する言語との関連などに配慮して選択する。【3(3)】③
		課題の設定 ○計測・制御システムの仕組み ・計測・制御システムの要素とインタフェースの必要性 ・順次、分岐、反復などのプログラムによる情報の処理 ○社会における問題の発見と課題の設定 ・自然環境の保全等に関わる社会的な問題について考え、利便性、環境負荷、安全性などに関する問題の発見と、必要な機能をもつ計測・制御システムの設計・製作といった課題の設定 ↓設定した課題の評価と修正↑ 技術に関する科学的な理解に基づいた設計 ○条件を踏まえた課題の解決策の構想 ・システムの構成要素の検討、センサやアクチュエータの選択 ・信号やデータの流れとモデルの設計 ・アクティビティ図による全体構成やアルゴリズムの改良 ↓プログラムの試行・試作による評価と改善及び修正↑ 課題解決に向けた制作 ○安全・適切なプログラムとモデルの制作 ・情報処理の手順や構造の入力 ・プログラムの編集・保存 ・システムの動作確認によるプログラムやモデルの修正・改善 ↓動作確認、デバッグ等による評価と修正↑ 成果の評価 ○課題の解決結果の評価と修正 ・解決結果及び解決過程の評価と改善及び修正	
題材5 栽培ロボットのモデル開発を通して社会的な問題を考えよう【17時間】			
技術による問題の解決	計測・制御システムの仕組み、安全・適切な制作、動作の確認、デバッグ等 D(3)ア 問題の発見と課題の設定、計測・制御システムの構想と情報処理の手順の具体化、制作の過程や結果の評価、改善及び修正 D(3)イ	課題の設定 ○計測・制御システムの仕組み ・計測・制御システムの要素とインタフェースの必要性 ・順次、分岐、反復などのプログラムによる情報の処理 ○社会における問題の発見と課題の設定 ・自然環境の保全等に関わる社会的な問題について考え、利便性、環境負荷、安全性などに関する問題の発見と、必要な機能をもつ計測・制御システムの設計・製作といった課題の設定 ↓設定した課題の評価と修正↑ 技術に関する科学的な理解に基づいた設計 ○条件を踏まえた課題の解決策の構想 ・システムの構成要素の検討、センサやアクチュエータの選択 ・信号やデータの流れとモデルの設計 ・アクティビティ図による全体構成やアルゴリズムの改良 ↓プログラムの試行・試作による評価と改善及び修正↑ 課題解決に向けた制作 ○安全・適切なプログラムとモデルの制作 ・情報処理の手順や構造の入力 ・プログラムの編集・保存 ・システムの動作確認によるプログラムやモデルの修正・改善 ↓動作確認、デバッグ等による評価と修正↑ 成果の評価 ○課題の解決結果の評価と修正 ・解決結果及び解決過程の評価と改善及び修正	・生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、その解決に向けた解決策の検討、計画、実践、評価、改善といった一連の学習活動の中で、…(後略)【3(2)】② ◆気温や湿度の計測結果に基づき、内容Bの学習内容に関わる灌水などの管理作業を計測・制御システムで自動的に行う栽培ロボットの開発(統合的な問題) ・新たなプログラムを設計することが難しい場合は、生徒が考えやすいように、教師があらかじめ用意した幾つかの見本となるプログラムをデータとして準備し、一部を自分なりに改良できるようにするなど、難易度の調整や段階的な指導に配慮することが考えられる。【3(1)】② ・ここで使用するプログラミング言語は、小学校での関連する学習経験など生徒の実態を踏まえるとともに、課題の解決に必要な機能、プログラムの制作やデバッグのしやすさ、(2)で使用する言語との関連などに配慮して選択する。【3(3)】③
		課題の設定 ○計測・制御システムの仕組み ・計測・制御システムの要素とインタフェースの必要性 ・順次、分岐、反復などのプログラムによる情報の処理 ○社会における問題の発見と課題の設定 ・自然環境の保全等に関わる社会的な問題について考え、利便性、環境負荷、安全性などに関する問題の発見と、必要な機能をもつ計測・制御システムの設計・製作といった課題の設定 ↓設定した課題の評価と修正↑ 技術に関する科学的な理解に基づいた設計 ○条件を踏まえた課題の解決策の構想 ・システムの構成要素の検討、センサやアクチュエータの選択 ・信号やデータの流れとモデルの設計 ・アクティビティ図による全体構成やアルゴリズムの改良 ↓プログラムの試行・試作による評価と改善及び修正↑ 課題解決に向けた制作 ○安全・適切なプログラムとモデルの制作 ・情報処理の手順や構造の入力 ・プログラムの編集・保存 ・システムの動作確認によるプログラムやモデルの修正・改善 ↓動作確認、デバッグ等による評価と修正↑ 成果の評価 ○課題の解決結果の評価と修正 ・解決結果及び解決過程の評価と改善及び修正	
社会の技術の発展	生活や社会、環境との関わりを踏まえた技術の概念 D(4)ア 技術の評価、選択と管理・運用、改良と応用 D(4)イ	次の問題の解決の視点 ○技術の評価と適切な選択、管理・運用、改良と応用 ・技術について、社会からの要求、安全性、システム、経済性などの多様な視点による評価 ・評価に基づく技術の(見方・考え方を働かせた)適切な改良と応用	・現在及び将来を見据えて、生活や社会の中から問題を見いだし課題を設定し、見直しをもって解決に取り組むとともに、学習の過程を振り返って実践を評価、改善させる。【3(2)】③
		○技術の評価と適切な選択、管理・運用、改良と応用 ・技術について、社会からの要求、安全性、システム、経済性などの多様な視点による評価 ・評価に基づく技術の(見方・考え方を働かせた)適切な改良と応用	

※標記の説明例 A(1)ア ⇒ 技術分野の内容A「材料及加工の技術」のうち(1)アに対応
【3(1)】① ⇒ 「3 指導計画作成にあたっての留意すべき事項」のうち(1)に対応する各内容における1つ目の留意点

5 家庭分野の指導計画例

(1) 小・中・高の系統性をより一層重視した指導計画例

- 各題材の導入時にA(1)アの内容に触れ、これまでの家庭生活や小学校家庭科の学習を振り返ることにより、学習内容がなめらかに接続されるとともに、高等学校の学習に発展していく計画となっている。
- 生活の課題と実践を各学年に配置している。特に1・2年生においては長期休業中に実践することで、学習のまとめや振り返りを行い、新たな課題やこれからの家庭生活に展望をもたせることができる設定としている。

指導事項	指導内容【配当時間】	指導上の留意点 *配慮事項 ☆小・中・高の関連
<p>自分の成長と家族 A(1)ア 衣服と社会生活との関わり、目的に応じた着用や個性を生かす着用、衣服の選択 B(4)ア(7) 衣服の計画的な活用、衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れ B(4)ア(1) 日常着の選択や手入れの工夫 B(4)イ 製作する物に適した材料や縫い方、用具の安全な取扱い B(5)ア 生活を豊かにするための資源や環境に配慮した布を用いた物の製作計画及び製作の工夫 B(5)イ</p>	<p>題材1 レベルアップした衣生活を目指そう 【19時間】</p> <p>○ガイダンス（3学年間の学習の見直し） ・家庭生活や小学校家庭科の振り返り ・家庭分野の学習のねらいと概要 ・自分の目標や課題の明確化 ○衣服の選択と手入れ ・社会生活を営む上での衣服の機能 ・和服の構成や基本的な着装 ・目的や場に応じたふさわしい着方 ・衣服の人に与える印象の違い ・組成表示、取扱い表示、サイズ表示 ・縫製の良否、手入れの仕方、手持ちの衣服との組合せ、価格 ・購入から廃棄までを見通した衣服の購入、着用しなくなった衣服の再利用やリサイクル ・綿、毛、ポリエステルなどの手入れにかかわる基本的な性質と手入れの仕方 ・洗剤の働き、衣服の材料や汚れに応じた洗濯や手入れの仕方、電気洗濯機を用いた洗濯方法 ・まつり縫い、ほころび直し、スナップ付け等の補修、ブラシかけなどの手入れ ・衣服の選択と手入れについての実践発表 ○布を用いた物の製作（身近な布製品のリメイク等） （製作物に着用しなくなったシャツのポケットやボタンを生かしたリメイクを施す工夫等） ・目的に応じた縫い方や製作方法 ・ミシンの安全な操作、点検、手入れ、調整方法 ・安全なアイロンの取扱い、布に応じた使い方 ・資源や環境に配慮することに関する課題設定</p>	<p>☆これまでの家庭生活や小学校家庭科の学習を振り返ったり、家庭分野の学習のねらいや概要に触れたりして、中学校3学年間の学習の見直しをもたせるようにする。 *各家庭や生徒のプライバシーに十分配慮する。 ☆衣服と社会生活との関わりについては、小学校で学習した衣服の働きを踏まえて、社会生活を営む上での機能を中心に理解できるようにする。 *調査や話し合いなどの活動を取り入れ、生徒が自分の衣服の着方について主体的に考えることができるようにする。【3(2)(3)】 *既習事項や自分の生活経験と関連付けて考え、適切な解決方法を選び、実践に向けて具体的に計画を立てることができるようにする。また、生徒が製作の目的を明確にもち、個性や工夫が生かせるようにする。【3(2)(3)】 ☆小学校で学習した手縫いやミシン縫いなどの基礎的・基本的な知識及び技能を発展させ、効果的に活用したりして製作できるように配慮する。 *製作を通して成就感を味わうとともに、自分や家族、地域の人々の生活を豊かにすることの大切さを実感できるようにする。 *製作品を活用することを通して、資源や環境を大切にしようとする態度の育成につなげるようにする。 *各指導事項のイについては解決方法を考え、計画を立てたり、実践したことを評価・改善したりする際、グループや学級内で交流するなどの活動を工夫し、生徒が考えを広げたり深めたりできるようにする。【3(2)(3)】</p>
<p>衣食住の生活についての課題と実践 B(7)ア</p>	<p>題材2 生活の課題と実践 【2時間】長期休業を利用し調査・研究を行う</p> <p>○学びのまとめとこれからの課題① ・『衣生活に関するこれまでの学び』をテーマにした実践発表</p>	<p>*家庭や地域社会との連携を図り、実践的な活動を行うことができるよう配慮する。【3(2)(3)(4)】</p>
<p>購入方法や支払い方法の特徴、計画的な金銭管理 C(1)ア(7) 売買契約の仕組み、消費者被害、選択に必要な情報の収集・整理 C(1)ア(4) 情報を活用した物資・サービスの購入の工夫 C(1)イ 消費者の基本的な権利と責任、消費行動が環境や社会に及ぼす影響 C(2)ア 自立した消費者としての消費行動の工夫 C(2)イ</p>	<p>題材3 買い物上手から賢い消費者へ 【14時間】</p> <p>○金銭の管理と購入 ・買い物の成功例、失敗例 ・無店舗販売の利点と問題点 ・前払い、即時払い、後払いの違い、クレジットカードの利点と問題点 ・生活に必要なものについての金銭の流れ、多様な支払い方法に応じた計画的な金銭管理 ・売買契約の法律上の責任 ・消費者と事業者の立場や情報量の格差 ・消費者被害への対応（ロールプレイングを取り入れた活動など） ・物資・サービスの選択に必要な情報の収集・整理 ・身近な商品の購入計画及び評価・改善（生活の課題と実践で作成したレポート用いた事例検証等） ○消費者の権利と責任 ・消費者の基本的な権利と責任 ・自分や家族の消費生活の在り方やライフスタイルの改善 ・環境や社会に及ぼす影響を考えた身近な消費生活の工夫</p>	<p>☆小学校における現金による店舗販売に関する学習を踏まえ、中学生の身近な消費行動と関連を図って扱う。計画的な金銭管理については、高等学校における長期的な経済計画や家計収支等についての学習につながるようにする。 *売買契約の仕組みについては、中学生の身近な消費行動を事例に取り上げ、消費者被害と関連させて扱うようにする。 *選択に必要な情報の適切な収集・整理については、(7)における購入方法や支払い方法の学習と関連させて扱うようにする。支払い方法についてはクレジットカードによる三者間契約を取り上げる。 *中学生にとって身近な商品の購入場面を取り上げ、消費者の基本的な権利と責任との関連や、環境や社会に及ぼす影響について具体的に考えられるようにする。【3(2)(3)】 *各家庭や生徒のプライバシーに十分配慮する。</p>
<p>食事が果たす役割 B(1)ア(7) 中学生の栄養の特徴、健康によい食習慣 B(1)ア(4) 健康によい食習慣の工夫 B(1)イ 栄養素の種類と働き、食品の栄養的特質 B(2)ア(7)</p>	<p>題材4 食事の役割を見直し、食生活をより良いものにしよう 【20時間】</p> <p>○食事の役割と中学生の栄養の特徴 ・これまでの私の食生活 ・孤食と共食の比較 ○中学生に必要な栄養を満たす食事 ・中学生の身体的な特徴と必要な栄養の特徴、食事摂取基準 ・栄養、運動、休養 ・食事の仕方に関する問題点の見直しと改善 ・五大栄養素の種類と働き、食物繊維の必要性、水の必要性</p>	<p>☆小学校家庭科との関連を図り、食事と健康に関する調査結果等を活用した話し合いなどの活動を通して、食事が果たす役割について具体的に考えることができるようにする。 *生徒のプライバシーに十分配慮する。 *身体的発達の変化と食事摂取基準などから、中学生に必要な栄養の特徴について考えることができるようにする。またこのことが高等学校におけるライフステージ別の栄養の特徴の学習につながることに触れるようにする。【3(2)(3)】</p>

指導事項	指導内容【配当時間】	指導上の留意点 *配慮事項 ☆小・中・高の関連
<p>中学生の1日に必要な食品の種類と概量、献立作成 B(2)ア(イ)</p> <p>中学生の1日分の献立の工夫 B(2)イ</p> <p>用途に応じた食品の選択 B(3)ア(7)</p> <p>食品や調理用具等の安全・衛生に留意した管理 B(3)ア(イ)</p> <p>材料に適した加熱調理の仕方、基礎的な日常食の調理 B(3)ア(ウ)</p> <p>地域の食文化、地域の食材を用いた和食の調理 B(3)ア(イ)</p> <p>日常の1食分の調理及び食品の選択や調理の仕方、調理計画の工夫 B(3)イ</p>	<ul style="list-style-type: none"> 食品群別摂取量の目安、1日に食べている食事の量 献立作成の方法(主食・主菜・副菜) 1日分の献立に必要な食品の種類と概量 栄養バランスがよい献立への修正 給食献立を中心に整える1日分の献立の工夫 ○日常食の調理と地域の食文化 目的、栄養、価格、調理の能率、環境への影響などの条件を考えた食品の選択 魚、肉、野菜、いもなどの生鮮食品の鮮度の見分け方 加工食品の表示と用途に応じた選択 基準値を設けて食品の安全を確保する仕組み(食品添加物や残留農薬、放射性物質等) 食中毒予防のための食品の安全で衛生的な扱い方、ごみの適切な処理 ふきんやまな板の衛生的な取扱い、包丁や刃物の安全な取扱い 調理用熱源の効率よく安全な取扱い 地域の食材を生かした基礎的な和食の調理 野菜の煮る調理(だしを使った筑前煮など) 肉の焼く調理(ハンバーグステーキなど) 魚の蒸す調理(鮭のホイル蒸し焼きなど) 生活の課題と実践で取り組むレポートと関連づけた調理計画の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ☆食品群については、小学校で学習した栄養素の体内での主な三つの働きとの系統性を考慮して扱う。 *1日3食のうちいくつかを指定して残りの献立を立案するなどして、1日分の献立について全体的な栄養のバランスを考えることができるようにする。また、中学生に必要な1日分の食事の量を理解できるようにする。 *調理実習で扱う食材にアレルギーの原因になる物質を含む食品が含まれていないかを確認する。 ☆熱源については小学校での学習を踏まえ、主に電気とガスの特徴を理解して効率よく安全に取り扱い、使用後の後始末についてはガスの元栓の閉め忘れや電源の切り忘れがないようにする。 ☆小学校で学習したゆでる、いためる調理に加え、煮る、焼く、蒸す等を扱う。魚や肉については中心まで火を通す方法を理解し、できるようにする。 *1品の調理実習を行う場合でも、1食分の献立例を考え、栄養バランスを確認できるようにする。 ☆小学校で学習しただしの役割を踏まえ、だしの種類や料理に適しただしの取り方に気付くようにする。 *だしと地域の実態に応じた、伝統的な行事食や郷土料理又は季節の食材を用いた汁物や煮物、日常の食事として食べられている和食を取り上げる。 *各指導事項のイについては解決方法を考え、計画を立てたり、調査、実践したことを評価・改善したりする際、話し合うことを通して、自分の考えを明確にしたり、他者と意見を共有して互いの考えを深めたりできるようにする。【3(2)(3)】
<p>消費生活・環境についての課題と実践 B(7)ア C(3)ア</p>	<p>題材5 生活の課題と実践 【2時間】長期休業を利用し調査・研究を行う</p> <p>○学びのまとめとこれからの課題②</p> <p>・『衣食の生活、消費生活・環境に関するこれまでの学び』をテーマにした実践発表</p> <p>*家庭や地域社会との連携を図り、実践的な活動を行うことができるよう配慮する。【3(2)(3)(4)】</p>	
<p>家族の生活と住空間との関わり、住居の基本的な機能 B(6)ア(7)</p> <p>家族の安全を考えた住空間の整え方 B(6)ア(イ)</p> <p>家族の安全を考えた住空間の整え方の工夫 B(6)イ</p>	<p>題材6 快適で安全な住まいを工夫しよう 【13時間】</p> <p>○住居の機能と安全な住まい方</p> <ul style="list-style-type: none"> 住生活に対する家族の思いや願い 和式と洋式を組み合わせた住空間の使い方の工夫 心身の安らぎと健康を維持する働き、子どもが育つ基盤としての働き 共同生活の空間、個人生活の空間 幼児や高齢者に起きることが多い家庭内の事故と安全な住空間の整え方 室内の空気環境の整え方 災害に備えた住まいの見直し 安全な住まい方のための家庭や地域の点検(我が家や地域の安全点検と対策) 安全計画と対策のための活動 <p>*住空間を想像できるような簡単な図や写真、動画などを用いて、家族の生活と住空間との関わりについて具体的に考えることができるようにする。</p> <p>☆小学校における季節の変化に合わせた住まい方の学習を踏まえて、伝統的な住宅や住まい方に見られる様々な知恵に気付き、生活文化を継承する大切さに気付くようにする。</p> <p>*写真や動画、簡単な図などを用いて、家庭内の事故や自然災害への対策としての住空間の整え方について具体的に考えることができるようにする。</p> <p>*解決方法を考え、計画を立て、計画したことを評価・改善したりする際、生徒が他者との意見交換を通して多角的に検討できるようにする。【3(2)(3)】</p> <p>*生徒の住まいに係るプライバシーに十分配慮する。</p>	
<p>家族・家庭の基本的な機能、家族や地域の人々との協力・協働 A(1)ア</p> <p>幼児の発達と生活の特徴、家族の役割 A(2)ア(7)</p> <p>幼児の遊びの意義、幼児との関わり方 A(2)ア(イ)</p> <p>幼児との関わり方の工夫 A(2)イ</p> <p>家族の協力と家族関係 A(3)ア(7)</p> <p>家庭生活と地域との関わり、高齢者との関わり方 A(3)ア(イ)</p> <p>家庭生活をよりよくする方法及び地域の人々と協働する方法の工夫 A(3)イ</p>	<p>題材7 家族の一員から地域の一員へと成長しよう 【15時間】</p> <p>○自分の成長と家族・家庭生活</p> <ul style="list-style-type: none"> 成長過程の振り返り 家族・家庭の基本的な機能、重要性 健康・快適・安全で環境に配慮した家庭生活、家族や地域の人々との協力・協働 <p>○幼児の生活と家族</p> <ul style="list-style-type: none"> 幼児の身体の発育や運動機能、言語、認知、情緒、社会性などの発達 幼児の生活リズム 基本的な生活習慣(食事、睡眠、排泄、着脱衣、清潔)、あいさつや安全のルール、人との関わりや社会の決まり 幼児の心身の発達を支える人との基本的な信頼関係(幼児との触れ合い体験) 幼児の発達と遊び、幼児に応じた関わり方、安全面や衛生面への配慮 触れ合い体験のふり取り、実践発表会 <p>○家族・家庭や地域との関わり</p> <ul style="list-style-type: none"> 家族の互いの立場や役割、立場を踏まえたよりよい関わり方 高齢者など地域の人々との協働(高齢者介助体験) 高齢者の身体の特徴を踏まえた関わり方 家族、高齢者など地域の人々とのよりよい関わり方、協働する方法の工夫 <p>*家族・家庭の基本的な機能については、BやCとの関連を図り、効果的な学習となるようにする。</p> <p>*身近な幼児と幼児に関わる人々の観察や視聴覚教材の活用、ロールプレイングなどの学習活動を通して具体的に扱うよう配慮する。</p> <p>*親子の観察などを通じて、幼児は周囲の人に保護され見守られて育ち、適切な保護や関わりが子供の成長に必要なことに気付くよう配慮する。</p> <p>*幼児と触れ合う活動については、地域の幼稚園、保育所、認定こども園などと連携しながら、効果的に実施できるように工夫するとともに、幼児及び生徒の安全に配慮する。【3(4)】</p> <p>・地域の実態に応じて、子育て支援などの関係機関や子育てサークルの親子などや、教室に幼児を招いての触れ合いを工夫するなど、可能な限り直接的な体験ができるよう留意し、幼児と触れ合うことの楽しさやよさを実感できるようにする。【3(4)】</p> <p>*高齢者との関わり方については介護の基礎に関する体験的な活動を通して、実感を伴って理解できるようにする。</p> <p>☆高等学校家庭科における高齢者の介護に関する学習につなげるようにする。</p> <p>* (1)、(2)及び(3)においては、相互に関連を図り、効果的な学習となるよう配慮する。</p> <p>*各家庭や地域、生徒の実態に合わせ、プライバシーに十分配慮する。</p>	
<p>家族・家庭生活についての課題と実践 A(4)ア</p>	<p>題材8 生活の課題と実践 【3時間】</p> <p>○学びのまとめとこれからの課題③</p> <p>・『私の成長～過去・現在・未来～』をテーマにしたレポート発表</p> <p>*家庭や地域社会との連携を図り、実践的な活動を行うことができるよう配慮する。【3(2)(3)(4)】</p>	

単位時間の一般的な学習展開については、生徒が学習課題を設定し、実践的・体験的な学習活動を通して学び合い、主体的に課題解決を図り、学習のまとめと振り返りを行うことができるようにする。

6 実習の指導及び安全指導について

技術・家庭科では、製作、制作、育成、実習、観察・実験、見学、調査、研究などの指導において、機器類、刃物類、引火性液体、電気、ガス、火気などを取り扱って実習するため、安全の保持に十分留意して学習指導を行う必要がある。特に、機器類を取り扱う際には、取扱説明書等に基づき適切な使用方法を遵守させるなど、事故防止に万全の注意を払う必要がある。

実習の指導に当たっては、施設・設備の安全管理に配慮し、学習環境を整備するとともに、火気、用具、材料などの取扱いに注意して事故防止の指導を徹底し、安全と衛生に十分留意する。

技術分野においては、正しい機器の操作や作業環境の整備等について指導するとともに、適切な服装や防護眼鏡・防塵マスクの着用、作業後の手洗いの実施等による安全の確保に努める。

家庭分野においては、幼児や高齢者と関わるなど校外での学習について、事故の防止策及び事故発生時の対応策等を綿密に計画するとともに、相手に対する配慮にも十分留意する。また、調理実習については、食物アレルギーにも配慮する。

(1) 安全管理

ア 実習室等の環境の整備と管理

実習室等の環境の整備と管理については、安全管理だけの問題ではなく、学習環境の整った実習室そのものが、生徒の内発的な学習意欲を高める効果があることに留意する。

そのため、実習室内は生徒の学習意欲を喚起するように題材に関する資料や模型、生徒の主体的な学習を支える支援教材等を掲示するなど工夫し、作業の効率や安全・衛生管理にも配慮して施設・設備等の学習環境の整備に努めるようにする。実習室等の施設の管理では、実習室の採光、通風、換気等に留意するとともに、生徒の作業動線を考慮して設備の整備をしたり、加工機器などの周囲には安全域を設けたりして事故防止に努める。また、設備の管理では、機器類の定期的な点検及び学習前の点検を行い、常に最良の状況を保持できるように留意する。

イ 材料や用具の管理

材料や用具の管理は、学習効果を高めるとともに、作業の能率、衛生管理、事故防止にも関係しているので、実習等で使用する材料の保管、用具の手入れなど適切に行うようにする。調理実習では、火気、包丁、食品などについての安全と衛生に留意し、食品の購入や管理を適切に行う。また、生徒にも指導を行い、実生活でも役立つことに気付くよう配慮する。

なお、廃棄物や残菜物については、持続可能な社会の構築に関連付けてその有効利用に努めるとともに、廃棄する場合は、自治体の分別方法等に対応して処理するようにする。栽培や飼育の実習では、実習後の土壌や資材等の処理について、地域の生態系へ影響を及ぼさないよう留意し、自治体の処理方法等に対応して処理するようにする。

(2) 安全指導

ア 実習室の使用等

各学校の実態に即して実習室の使用規定や機器類の使用などに関する安全規則を定め、これらを指導計画の中に位置付けて指導の徹底を図るようにする。また、事故・災害が発生した場合の応急処置と連絡の徹底等、緊急時の対応についても指導する。

イ 学習時の服装及び留意事項

服装については、活動しやすいものを身に付けさせ、安全と衛生に配慮するようにする。

機器類の操作場面では、皮膚を露出しない作業着等を着用させたり、作業内容に応じて防護眼鏡、防塵マスク、手袋などの適切な保護具を着けさせたりする。また、作業後には手洗いを励行させるなど、衛生・健康面にも配慮するように指導する。

食品を扱う場面では、エプロンや三角巾を着用させて、清潔を保つようにするとともに、手洗いを励行させるなど衛生面に配慮するように指導する。また、食物アレルギーについては、生徒の食物アレルギーに関する正確な情報の把握に努め、発症の原因となりやすい食物の管理や、発症した場合の緊急時対応について各学校の基本方針等を基に事前確認を行うとともに、保護者や関係機関等との情報共有を確実にし、事故の防止に努めるようにする。

ウ 校外での学習

見学、調査、実習等を校外で実施する場合、目的地に到着するまでの移動経路や方法を事前に調査し、交通などの安全の確認や生徒自身の安全の確保に留意する。学習の対象が幼児や高齢者など人である場合には、相手に対する配慮や安全の確保などに十分気を配るよう指導する。

7 題材の指導項目・指導事項チェック表

題材			第1学年					第2学年					第3学年			合計			
			技術		家庭			技術		家庭			技術		家庭				
			題材1	題材2	題材1	題材2	題材3	題材3	題材4	題材5	題材6	題材7	題材8	題材5	題材7		題材8		
			近身の生活の回りの問題を整理する作品を作って身	野楽の栽培技術をもとに食糧生産等	レベルアップした衣生活を目標としよう	生活の課題と実践	買い物上手から賢い消費者へ	身近な社会についての改善を通過して持続可	簡単なチャットシステムの改善を通過	食生活の役割を見直し、食生活をより	生活の課題と実践	快適で安全な住まいを工夫しよう	社会的な問題を解決しよう	栽培ロボットのモデル開発を通して	家族の一員から地域の一員へと成長		生活の課題と実践		
技術分野	A 材料と加工	(1)	ア	材料や加工の特性などの原理・法則と基礎的な技術の仕組み	○														
			イ	技術に込められた課題解決の工夫	○														
			ア	製作に必要な図、安全・適切な製作、検査・点検など	○														
		(2)	イ	問題の発見と課題の設定、成形の方法などの構想と設計の具体化、製作の過程や結果の評価、改善及び修正	○														
			ア	生活や社会、環境との関わりを踏まえた技術の概念	○														
			イ	技術の評価、選択と管理・運用、改良と応用	○														
		B 生物育成	(1)	ア	生物の成長などの原理・法則と基礎的な技術の仕組み		○							◆					
			イ	技術に込められた問題解決の工夫		○								◆					
			ア	安全・適切な栽培又は飼育、検査など		○								◆					
	(2)		イ	問題の発見と課題の設定、育成環境の調節方法の構想と育成計画、栽培又は飼育の過程や結果の評価、改善及び修正		○								◆					
			ア	生活や社会、環境との関わりを踏まえた技術の概念		○								◆					
			イ	技術の評価、選択と管理・運用、改良と応用		○								◆					
	C エネルギー	(1)	ア	電気、運動、熱の特性などの原理・法則と基礎的な技術の仕組み					○										
		イ	技術に込められた問題解決の工夫					○											
		ア	安全・適切な製作、実装、点検、調整など					○											
(2)		イ	問題の発見と課題の設定、電気回路や力学的な機構などの構想と設計の具体化、製作の過程や結果の評価、改善及び修正					○											
		ア	生活や社会、環境との関わりを踏まえた技術の概念					○											
		イ	技術の評価、選択と管理・運用、改良と応用					○											
	D 情報の技術	(1)	ア	情報の表現の特性などの原理・法則と基礎的な技術の仕組み						○									
		イ	技術に込められた問題解決の工夫						○										
		ア	情報通信ネットワークの構成、安全に情報を利用するための仕組み、安全・適切な制作、動作の確認、デバッグ等						○										
(2)		イ	問題の発見と課題の設定、メディアを複合する方法などの構想と情報処理の手順の具体化、制作の過程や結果の評価、改善及び修正						○										
		ア	計測・制御システムの仕組み、安全・適切な制作、動作の確認、デバッグ等											○					
		イ	問題の発見と課題の設定、計測・制御システムの構想と情報処理の手順の具体化、制作の過程や結果の評価、改善及び修正											○					
		ア	生活や社会、環境との関わりを踏まえた技術の概念											○					
		イ	技術の評価、選択と管理・運用、改良と応用											○					
家庭分野	A 家族・家庭生活	(1)	ア	自分の成長と家庭生活との関わり、家族・家庭の基本的な機能、家族や地域の人々との協力・協働		○									○				
			ア	(7) 幼児の発達と生活の特徴、家族の役割												○			
			(4) 幼児の遊びの意義、幼児との関わり方													○			
			イ	幼児との関わり方の工夫												○			
			ア	(7) 家族の協力と家族関係												○			
			(4) 家庭生活と地域との関わり、高齢者との関わり方													○			
		イ	家庭生活をよりよくする方法及び地域の人々と協働する方法の工夫												○				
		(4) 家族、幼児の生活又は地域の生活についての課題と計画、実践、評価														★			
		B 衣食住の生活	(1)	ア	(7) 食事が果たす役割							○							
			(4) 中学生の栄養の特徴、健康に良い食習慣									○							
			イ	健康に良い食習慣の工夫								○							
			ア	(7) 栄養素の種類と働き、食品の栄養的特質								○							
	(4) 中学生の1日に必要な食品の種類と概量、献立作成										○								
	イ		中学生の1日分の献立の工夫								○								
	ア		(7) 用途に応じた食品の選択								○								
	(4) 食品や調理用具等の安全・衛生に留意した管理										○								
	(6) 材料に適した加熱調理の仕方、基礎的な日常食の調理										○								
	(3) 地域の食文化、地域の食材を用いた和食の調理										○								
	イ	日常の1食分の調理及び食品の選択や調理の仕方、調理計画の工夫								○									
	ア	(7) 衣服と社会生活との関わり、目的に応じた着用や個性を生かす着用、衣服の選択			○														
	(4) 衣服の計画的な活用、衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れ			○															
	イ	日常着の選択や手入れの工夫		○															
	ア	製作する物に適した材料や縫い方、用具の安全な取扱い		○															
	イ	生活を豊かにするための資源や環境に配慮した布を用いた物の製作計画及び製作の工夫		○															
	ア	(7) 家族の生活と住空間との関わり、住居の基本的な機能										○							
	(4) 家族の安全を考えた住空間の整え方											○							
	イ	家族の安全を考えた住空間の整え方の工夫										○							
	(7) 食生活、衣生活、住生活についての課題と計画、実践、評価				★							★							
C 消費生活	A 環境生活	(1)	ア	(7) 購入方法や支払い方法の特徴、計画的な金銭管理				○											
			(4) 売買契約の仕組み、消費者被害、選択に必要な情報の収集・整理				○												
		イ	情報を活用した物資・サービスの購入の工夫				○												
		ア	消費者の基本的な権利と責任、消費生活が環境や社会に及ぼす影響				○												
		イ	自立した消費者としての消費行動の工夫				○												
		(3) 環境に配慮した消費生活についての課題と計画、実践、評価														★			

*枠囲みは選択項目。3学年間で1以上を選択【家庭分野のみ】

◆については「統合した問題」に関わる内容とする

★については「生活の課題と実践」とする